

南相馬市～工事等設計書～

起工月	令和 8 年 9 月		工事概要	施工延長 L=25.3m	
契約番号	2026000740			配水管布設替工 DIP-K φ150 L=11.2(11.2)m	
路線名	市道押釜馬場線			排泥弁工 N=1箇所	
工事等名	経年管更新事業 配水管布設替（馬場字川原田地区）工事			不断水工 N=4箇所	
				水管橋設置工 SUS φ150 L=14.0(16.4)m	
工事等場所	南相馬市 原町区馬場字川原田 地内		産業廃棄物処理料 N=1式		
総工事費	当初請負		仕様概要	交通安全工 N=1式	
	当初設計			1 設計図書及び標準仕様書に準ずること	
	変更請負			2 詳細は監督員の指示によること	
	変更設計				
工 事 費 総 括 表					
費 目	金 額	工 事 価 格	消費税相当額	摘 要	
本工事費					
附帯工事費					
測量及び試験費					
用地費及び補償費					
機械器具費					
営繕費					
工事雑費					
工事費					
事務費					
事業費					

工 事 費 内 訳 書

契約番号(2026000740)		
経年管更新事業配水管布設替(馬場字川原田地区)工事		
種 別	金 額 (円)	備 考
配水管布設工		
排泥工		
不断水工		
水管橋設置工		
産業廃棄物処理料		
交通安全工		
直接工事費		
諸 経 費		
工事費計(税抜き)		

※諸経費は一括計上すること。ただし、積み上げ金額がある場合は備考に内書で()の中に金額を記入すること。

住 所

業者名

代表者名



最低制限価格の設定(算定)について

経年管更新事業配水管布設替(馬場字川原田地区)工事

今回の入札において、最低制限価格を下記の計算式に基づき設定しております。

※該当工事には ☒ のチェック表示をしております。

工事に伴う最低限必要な費用＝最低制限価格(P)

■ 最低制限価格(P)の設定範囲： 予定価格(入札書比較価格)の75%～92%＋消費税額

※ 予定価格(入札書比較価格)の75%～92%の範囲内で算出(1千円未満の端数は切り捨てる)した額に、消費税額を加算した額を最低制限価格(P)とする。ただし、上記の設定範囲を上回った(下回った)場合には、それぞれ設定範囲の上限(下限)値とする。

算定式

☐ 一般土木工事(橋製作・架設工を含む)

直接工事費×97%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×90%＋一般管理費×68%

☐ 建築工事(一般・解体工事共通)

直接工事費×97%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×90%＋一般管理費×68%

※建築工事に付随する設備工事、並びに単独補修工事は建築工事算定方法に準じる

☐ 舗装工事

直接工事費×97%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×90%＋一般管理費×68%

☒ 水道工事

直接工事費×97%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×90%＋一般管理費×68%

☐ 暖冷房衛生設備工事

直接工事費×97%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×90%＋一般管理費68%

☐ 電気・通信設備工事(製作・据付共通)

(直接製作費＋直接工事費)×97%＋(共通仮設費＋間接労務費)×90%＋(現場管理費＋工場管理費＋機器間接費)×90%＋一般管理費(製作分＋据付分)×68%

☐ 機械設備工事(製作・据付共通)

(直接製作費＋直接工事費)×97%＋(共通仮設費＋間接労務費)×90%＋(現場管理費＋工場管理費＋据付間接費＋設計技術費)×90%＋一般管理費×68%

※直接製作費:製作工事に係る経費(材料費、機器単体費、労務費 等)

※直接工事費:据付工事に係る経費(輸送費、材料費、労務費、仮設費 等)

南相馬市原町区

施工箇所

太平洋



凡 例	

総括情報表

頁0-0001

事務所 設計書名 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日	D1 南相馬市 実施設計書 当初 000000000000 0 1 実施単価 71 S（相双1）地区 00-08.09.01(0)		
諸経費体系 ファイル名	9 水道工事 000000000000当初R8経年管更新事業配水管布設替（馬場字川原田地区）工事		
	当 世 代		前 世 代
前払率 工種区分 冬期割増 施工地域補正 積雪寒冷地補正 現場環境改善費 契約保証補正 週休二日補正 復興係数（共通仮設費） 復興係数（現場管理費）	40 01 開削・小口径推進工事等 00 冬期割増なし 06 一般交通影響あり2 00 積雪寒冷地補正なし 00 必要なし 01 金銭的保証 01 月単位 01 補正あり 1. 3 01 補正あり 1. 1		

工種条件

条件	条件値	名称
A 水替費区分	0	水替費なし
	1	水替費あり
B 山林砂防工置き換え区分	0	山林砂防工置き換えなし
	1	山林砂防工置き換えあり
C 時間的制約を受ける場合の労務単価補正	1	時間的制約を受ける(補正1.06)
	2	時間的制約を著しく受ける(補正1.14)
D 夜間工事の場合の労務単価補正	1	20時開始の夜間工事(補正1.5)
	2	19時開始の夜間工事(補正1.437)
	3	18時開始の夜間工事(補正1.375)
E 特殊勤務費[円]		

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0002

費目・工種・施工名称など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
本工事費						X1000
配水管布設工事						Y1384
		1	式			工種 第0001号表
直接工事費						
安 全 費						Z0008
			式			
工事名標示板加算額						S9990 00
		2	基			施工 第0 -0055号表
共通仮設費 対象額算出						
			式			
共通仮設費（率分）						Z0013
			式			
共通仮設費						
純工事費						
現場管理費 対象額算出						
			式			
現場管理費						
			式			
工事原価						

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0003

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般管理費 対象額算出					
		式			
一般管理費等					
		式			
工事価格					
工事価格（改め）					
消費税相当額					
		式			
工事費計					

工 種 明 細 表

頁0-0004

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配水管布設工事 Y1384					工種 第0001号表
配水管布設工					Y2384
	1	式			工種 第0002号表
排泥工					Y2384
	1	式			工種 第0006号表
不断水工					Y2384
	1	式			工種 第0010号表
水管橋設置工					Y2384
	1	式			工種 第0014号表
産業廃棄物処理料					Y2384
	1	式			工種 第0017号表
交通安全工					Y2193
	1	式			工種 第0018号表
*** 単位当たり ***	1	式			

配水管布設工 Y2384					工種 第0002号表
資材費					Y3384
	1	式			工種 第0003号表
労務費					Y3384
	1	式			工種 第0004号表
土工費					Y3384
	1	式			工種 第0005号表
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0005

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
資材費 Y3384					工種 第0003号表
ダクタイル鋳鉄管（内面珪酸粉体塗装） K形3種φ150mm×5m	2	本			TZ0123 00 080901
ダクタイル鋳鉄異形管（内面珪酸粉体塗装） K形曲管φ150×45°	3	個			TZ0310 00 080901
ダクタイル鋳鉄異形管（内面珪酸粉体塗装） K形曲管φ150×22°1/2	1	個			TZ0311 00 080901
K形離脱防止特殊押輪 φ75 離脱防止（3DkN以上）	1	個			F4001 00 080901
K形離脱防止特殊押輪 φ150 離脱防止（3DkN以上）	12	個			F4002 00 080901
ダクタイル鋳鉄異形管（内面珪酸粉体塗装） K形二受T字管φ150×φ75	1	個			TZ0204 00 080901
ダクタイル鋳鉄異形管（内面珪酸粉体塗装） K形継輪φ150	2	個			TZ0523 00 080901
識別マーカー 青色	5	個			F4003 00 080901
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0006

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
労務費 Y3384					工種 第0004号表
鑄鉄管吊込み据付工：機械 φ150	11.2	m			SZ0010 00 080901 施工 第0 -0001号表
鑄鉄管切断工(エンジンカッター) φ150	3	口			SZ0455 00 080901 施工 第0 -0003号表
メカニカル継手工 φ75以下 特殊押輪	1	口			SZ0020 00 080901 施工 第0 -0004号表
メカニカル継手工 φ150 特殊押輪	12	口			SZ0020 00 080901 施工 第0 -0005号表
ポリエチレンスリーブ被覆工 φ150	11.2	m			SZ0120 00 080901 施工 第0 -0006号表
管明示テープ工：鑄鉄管 φ150×5000 天端明示無し	11.2	m			SZ0150 00 080901 施工 第0 -0007号表
管明示シート工 W150mm×50m 2倍	11.2	m			SZ0160 00 080901 施工 第0 -0008号表
通水試験工 給水車不使用	11.2	m			SZ1011 00 080901 施工 第0 -0009号表
*** 単位当たり ***	1	式			

土工費 Y3384					工種 第0005号表
本管土工 市道車道舗装部、路肩部 DIP-Kφ150 DP=1.20m	1	式			V2001 00 080901 施工 第0 -0011号表
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0007

[illegible]

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

工 種 明 細 表

頁0-0008

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
資材費 Y3384					工種 第0007号表
両挿しメタルシート仕切弁 φ75	1	基			F4004 00 080901
CVメカニカルバンド φ75×45°	1	個			F4005 00 080901
塩ビ製継手 H I エルボφ75	3	個			TZ3117 00 080901
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 T S - V P (H I) φ75×4m JIS K 6742	2	本			TZ2157 00 080901
仕切弁筐類 口環付斜式弁筐(カー・FCD製・頭部φ300) H=810~1260	1	個			TZZ0843 00 080901
弁筐座台及び弁基礎用底版 弁筐座台(丸型再生プラスチック製) H=50	1	個			TZZ0928 00 080901
弁筐座台及び弁基礎用底版 弁基礎用底版(角形コンクリート製) W500×D300×H60	1	個			TZZ0929 00 080901
弁筐関連資材 仕切弁継足棒 L-500 四方向固定	1	本			TZZ0834 00 080901
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0009

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
労務費 Y3384					工種 第0008号表
硬質塩化ビニル管据付工 φ75	7.4	m			SZ0300 00 080901 施工 第0 -0029号表
硬質塩化ビニル管切断工 φ75	2	口			SZ0500 00 080901 施工 第0 -0030号表
メカニカル継手工 φ75以下 押輪	1	口			SZ0020 00 080901 施工 第0 -0031号表
RR継手工 離脱防止金具 有り φ75	1	口			SZ0320 00 080901 施工 第0 -0032号表
仕切弁・バタフライ弁設置工(縦・横型):人力 φ75	1	基			SZ0570 00 080901 施工 第0 -0033号表
硬質塩化ビニル管用铸铁異形管被覆工 曲管 φ75	1	箇所			SZ0330 00 080901 施工 第0 -0034号表
管明示テープ工:硬質塩化ビニル管 φ75×5000 天端明示無し	7.4	m			SZ0340 00 080901 施工 第0 -0035号表
管明示シート工 W150mm×50m 2倍	7.4	m			SZ0160 00 080901 施工 第0 -0008号表
*** 単位当たり ***	1	式			

土工費 Y3384					工種 第0009号表
排泥土工 市道路肩部 HIVPφ75 DP=1.20m	1	式			V2002 00 080901 施工 第0 -0036号表
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0010

[illegible]

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

工 種 明 細 表

頁0-0011

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
資材費 Y3384					工種 第0011号表
不断水割T字管K形受口付 DCIP用 φ150×φ150 材料費	2	基			F5001 00 080901
不断水簡易バルブ設置工事 DCIP用 φ150 材料費	2	個			TZZ0193 00 080901
仕切弁筐類 口環付斜式弁筐(カー・FCD製・頭部φ300) H=810~1260	4	個			TZZ0843 00 080901
弁筐座台及び弁基礎用底版 弁筐座台(丸型再生プラスチック製) H=50	4	個			TZZ0928 00 080901
弁筐座台及び弁基礎用底版 弁基礎用底版(角形コンクリート製) W500×D300×H60	4	個			TZZ0929 00 080901
弁筐関連資材 仕切弁継足棒 L-500 四方向固定	4	本			TZZ0834 00 080901
K形離脱防止特殊押輪 φ150 離脱防止 (30kN以上)	2	個			F4002 00 080901
K形管帽 φ150	2	個			F5002 00 080901
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0012

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
労務費 Y3384					工種 第0012号表
ねじ式弁設置工 A、B形 1号 底板 有り	4	箇所			SZ0690 00 080901 施工 第0 -0037号表
調整データ		調整式			#0040
不断水分岐工事(バルブ付) DCIP用 φ150×150 工事費	2	箇所			TZZ0240 00 080901
不断水簡易バルブ設置工事 DCIP用 φ150 工事費	2	箇所			TZZ0194 00 080901
*** 単位当たり ***	1	式			

土工費 Y3384					工種 第0013号表
不断水土工 市道車道舗装部 DP=1.20m	1	式			V2003 00 080901 施工 第0 -0038号表
*** 単位当たり ***	1	式			

水管橋設置工 Y2384					工種 第0014号表
資材費	1	式			Y3384 工種 第0015号表
労務費	1	式			Y3384 工種 第0016号表
*** 単位当たり ***	1	式			

工 種 明 細 表

頁0-0013

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
資材費 Y3384					工種 第0015号表
両B曲管 150A×1000L×90°×600L	2	本			F6001 00 080901
両B保温付曲管（取出7.5kGF付） 150A×250φ×80A×600L×90° ×2890L×1890L1×240H	1	本			F6002 00 080901
両B保温付曲管 150A×250φ×3500L	1	本			F6003 00 080901
両B保温付曲管 150A×250φ×2890L×90°×600L	1	本			F6004 00 080901
現場溶接部二つ割カバー 150A×250φ用	2	組			F6005 00 080901
不凍急排空気弁（SUS304） φ25	1	基			F6006 00 080901
歩行防止柵（SS400+S-1塗装）	2	組			F6007 00 080901
伸縮可撓管（B×S、K形） φ150(h=200)※タイロッド付 EBT-UZSSK	2	組			F6008 00 080901
ジョイントコート（材料） 150A用	4	枚			F6009 00 080901
*** 単位当たり ***	1	式			

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

工 種 明 細 表

頁0-0014

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
労務費 Y3384					工種 第0016号表
荷卸工					F7001 00 080901
	1	式			
組立工（地組工）					F7002 00 080901
	1	式			
架設工 25t ラフタークレーン使用					F7003 00 080901
	1	式			
ステンレス鋼管電気溶接工 φ150 板厚5.0mm 直流溶接					SZ0240 00 080901
	6	箇所			施工 第0 -0045号表
現場溶接工（外装管溶接箇所） 150A×250φ用					F7004 00 080901
	2	箇所			
現場塗装工 S-1塗装					F7005 00 080901
	2	箇所			
フランジ継手工 φ75（80） JWWA 7.5K					SZ0040 00 080901
	1	口			施工 第0 -0046号表
空気弁設置工（人力施工） 空気弁設置 φ13～25					SZ0600 00 080901
	1	基			施工 第0 -0047号表
歩行防止柵設置工 150A×250φ用					F7006 00 080901
	2	箇所			
伸縮可撓管設置工 φ150					F7007 00 080901
	2	箇所			
ジョイントコート工 150A用					F7008 00 080901
	4	箇所			
X線検査工					F7009 00 080901
	1	日			
防護コンクリート工 2箇所					V2004 00 080901
	1	式			施工 第0 -0048号表
*** 単位当たり ***					
	1	式			

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

工 種 明 細 表

頁0-0015

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
産業廃棄物処理料 Y2384					工種 第0017号表
ダンプ運搬工（4 t 積車） 運搬距離 L=8.7km クローラ型 山0.28m ³ （平0.20m ³ ） 切断汚泥	0.26	m ³			SZA260 00 080901 施工 第0 -0054号表
調整データ					#0040
	1	調整式			
産業廃棄物（中間処理） アスファルト	1.5	t			W0001
産業廃棄物（中間処理） As切断汚泥処分	0.36	t			W0002
*** 単位当たり ***	1	式			

交通安全工 Y2193					工種 第0018号表
交通管理工	1	式			Y32A2007330 工種 第0019号表
*** 単位当たり ***	1	式			

交通管理工 Y32A2007330					工種 第0019号表
交通誘導員	1	式			Y4019 工種 第0020号表
*** 単位当たり ***	1	式			

施 工 内 訳 表

頁0-0017

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鑄鉄管吊込み据付工：機械 SZ0010 φ150	10	m			施工 第0 -0001号表
特殊作業員 [0.780]	0.090	人			R0020 0.09*1
普通作業員 [0.842]	0.150	人			R0030 0.15*1
クレーン付トラック運転 機-1 4 t 積 2.9 t 吊	1.340	h			SZ8060 1.34*1 施工 第0-0002号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 据付 B=3 φ150 C=1 少ない D=1 良好					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0018

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
クレーン付トラック運転 SZ8060 機-1 4 t 積 2.9 t 吊	1	h			施工 第0 -0002号表
運転手 (特殊) [0.788]	0.170	人			R0120
軽油 ミニローリー (パトロール給油)	5.300	L			T0250
トラック [クレーン装置付] 4~4.5 t 積 2.9 t 吊	1.000	h			M0343
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	h			
A=2 4 t 積 2.9 t 吊					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0019

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋳鉄管切断工(エンジンカッター) SZ0455 φ150	1	口			施工 第0 -0003号表
特殊作業員 [0.780]	0.040	人			R0020
普通作業員 [0.842]	0.080	人			R0030
エンジンカッター損料	0.040	日			TZ8252
諸雑費	30.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	口			
A=1 切断 B=4 φ150					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0020

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
メカニカル継手工 SZ0020 φ 7 5 以下 特殊押輪	1	口			施工 第0 -0004号表
特殊作業員 [0.780]	0.065	人			R0020 0.05*1.3
普通作業員 [0.842]	0.065	人			R0030 0.05*1.3
諸雑費	1.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	口			
A=1 継手 B=1 φ 7 5 以下 C=1 普通継手 D=2 特殊押輪 E=4 押しボルト数 (特殊押輪使用の場合のみ)					
F=4 T頭ボルト数 (特殊押輪使用の場合のみ) G=1 少ない H=1 良好					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0021

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
メカニカル継手工 SZ0020 φ150 特殊押輪	1	口			施工 第0 -0005号表
特殊作業員 [0.780]	0.078	人			R0020 0.06*1.3
普通作業員 [0.842]	0.078	人			R0030 0.06*1.3
諸雑費	1.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	口			
A=1 継手 B=3 φ150 C=1 普通継手 D=2 特殊押輪 E=6 押しボルト数（特殊押輪使用の場合のみ）					
F=6 T頭ボルト数（特殊押輪使用の場合のみ） G=1 少ない H=1 良好					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0022

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ポリエチレンスリーブ被覆工 SZ0120 φ150	100	m			施工 第0 -0006号表
特殊作業員 [0.780]	0.350	人			R0020
普通作業員 [0.842]	0.350	人			R0030
ポリエチレンスリーブ φ150 × 6.0m	120.000	m			TZ8014
粘着テープ t=0.4mm W=50mm	83.600	m			TZ8052
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=3 φ150 B=2 粘着テープ C=0 ポリエチレンスリーブ割増係数 D=0 固定バンド割増係数					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0023

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
管明示テープ工：铸铁管 SZ0150 φ150×5000 天端明示無し	100	m			施工 第0 -0007号表
普通作業員 [0.842]	0.110	人			R0030
管明示テープ（エコポリ製・印刷表示付） W50mm×t0.15mm 粘着	100.000	m			TZ7112
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=4 B=100 C=2 φ150×5000 天端明示無し 管明示テープ数量（m） エコポリ製・印刷表示付 W50mm×t0.15mm 粘着					

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0025

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
通水試験工 SZ1011 給水車不使用	1	m			施工 第0 -0009号表
通水試験工 既設管と連絡して給水車が不要の場合	1.000	日			SZ1010 施工 第0-0010号表
諸雑費	1	式			#99
m当たり		m			+00
*** 単位当たり ***	1	m			
A=5 給水車不使用					

通水試験工 SZ1010 既設管と連絡して給水車が不要の場合	1	日			施工 第0 -0010号表
特殊作業員 [0.780]	3.000	人			R0020
普通作業員 [0.842]	3.000	人			R0030
器具損料及び諸雑費	20.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	日			
A=2 既設管と連絡して給水車が不要の場合					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0026

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
本管土工 V2001 市道車道舗装部、路肩部 DIP-Kφ150 DP=1.20m	1	式			施工 第0 -0011号表 特単単価適用日：08年09月01日
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下	13.1	m			SPD321 施工 第0-0012号表
舗装版直接掘削積込み工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³) 舗装厚 0cm超え10cm以下	3.6	m ²			SZA231 施工 第0-0013号表
ダンプ運搬工 (4t積車) 運搬距離 L=9.8km クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³)	0.2	m ³			SZA260 施工 第0-0015号表
機械掘削工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	8.9	m ³			SZA211 施工 第0-0017号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	2.6	m ³			SZA221 施工 第0-0019号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	2.2	m ³			SZA221 施工 第0-0019号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	2.6	m ³			SZA221 施工 第0-0019号表
路盤工 下層路盤 一層仕上り厚さ 20cm	3.6	m ²			SZA240 施工 第0-0021号表
路盤工 上層路盤 一層仕上り厚さ 15cm	3.6	m ²			SZA240 施工 第0-0023号表
アスファルト舗装工 (人力) / 車道・路肩 粗粒度 (20) 再生アスファルト合材を使用する	3.6	m ²			SZA320 施工 第0-0024号表
ダンプ運搬工 (4t積車) 運搬距離 L=2km クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³)	6.3	m ³			SZA260 施工 第0-0027号表
整地 残土受入れ地での処理	6.3	m ³			SPA109 施工 第0-0028号表

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0027

[illegible]

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施工パッケージ内訳表

頁0-0028

標準単価： 機械構成比： 労務構成比： 材料構成比： 市場単価構成比：

代表機労材規格(積算地区)	単価(積算地区)	構成比	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)
舗装版切断 SPD321 アスファルト舗装版 標準単価： 700.44 機械構成比： 15.05% 労務構成比： 58.43% 材料構成比： 26.52% 市場単価構成比： 0.00%	15cm以下		施工 第0 -0012号表 1 m	
MC448 コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		10.24%	TPMC448 コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音	
R0020 特殊作業員 [0.780]		19.96%	TPR0020 特殊作業員	
R0010 土木一般世話役 [0.753]		10.88%	TPR0010 土木一般世話役	
R0030 普通作業員 [0.842]		8.92%	TPR0030 普通作業員	
T9877 コンクリートカッタブレード 径 4 5 c m (1 8 インチ)		22.39%	TPTSD05 ブレード (コンクリートカッタ) 径 1 8 インチ (4 5 c m)	
T0240 レギュラーガソリン スタンド		2.81%	TPT0240 ガソリン レギュラー スタンド	
*** 単位当たり ***				
A=1 アスファルト舗装版 B=1 15cm以下 E=1 全ての費用 F=1 土木工事標準積算基準 IV-3-③-1				

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0029

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装版直接掘削積込み工 SZA231 クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³) 舗装厚 0cm超え10cm以下	100	m ²			施工 第0 -0013号表
土木一般世話役 [0.753]	0.420	人			R0010
普通作業員 [0.842]	0.630	人			R0030
バックホウ運転 機-1 クローラ型 山0.28m ³ (平積0.2m ³)	3.350	h			SZ8020 施工 第0-0014号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			
A=1 クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³) B=1 舗装厚 0cm超え10cm以下 C=2 バックホウ 排ガス対策型 (第1次基準値) 使用 D=1 補正なし					

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0030

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転 SZ8020 機-1 クローラ型 山0.28m ³ (平積0.2m ³)	1	h			施工 第0 -0014号表
運転手 (特殊) [0.788]	0.160	人			R0120
軽油 ミニローリー (パトロール給油)	5.900	L			T0250
バックホウ (クローラ型) [標準型] 山積0.28m ³ 平積0.2m ³ 排ガス型 (第1次基準値)	1.000	h			MOB01
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	h			
A=1 クローラ型 山0.28m ³ (平積0.2m ³) B=1 補正なし C=2 排出ガス対策型 (第1次基準値) 使用 D=0.16 運転労務数量 E=5.9 燃料消費量					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0031

[illegible]

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0032

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 SZK506 機-2.2 4 t 積級	1	日			施工 第0 -0016号表
運転手 (一般) [0.813]	1.000	人			R0130
軽油 ミニローリー (パトロール給油)	32.000	L			T0250
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	1.290	供用日			MA302
ダンプトラックタイヤ損耗 4 t 路面状況 良好 【損料表】	1.290	供用日			K1013
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	日			
A=2 4 t 積級 B=1 補正なし C=1 タイヤの損耗状態 良好 D=1 運転労務数量 E=32 燃料消費量					
F=1.29 機械損料数量					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0033

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
機械掘削工 SZA211 ｸﾛｰﾗ型 山0.28m3 (平0.2m3)	100	m3			施工 第0 -0017号表
土木一般世話役 [0.753]	1.900	人			R0010
普通作業員 [0.842]	5.000	人			R0030
バックホウ運転 機-1 ｸﾛｰﾗ型 山0. 2 8 m3 (平積0. 2 m3)	11.100	h			SZ8020 施工 第0-0018号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m3			
*** 単位当たり ***	1	m3			
A=1 ｸﾛｰﾗ型 山0.28m3 (平0.2m3)					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0034

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転 SZ8020 機-1 クローラ型 山0.28m ³ (平積0.2m ³)	1	h			施工 第0 -0018号表
運転手 (特殊) [0.788]	0.160	人			R0120
軽油 ミニローリー (パトロール給油)	5.900	L			T0250
バックホウ (クローラ型) [標準型] 山積0.28m ³ 平積0.2m ³ 排ガス型 (第2次基準値)	1.000	h			MOBA1
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	h			
A=1 クローラ型 山0.28m ³ (平積0.2m ³) B=1 補正なし C=3 排出ガス対策型 (第2次基準値) 使用 D=0.16 運転労務数量 E=5.9 燃料消費量					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0035

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
機械埋戻工 SZA221 ｸﾛｰﾗ型 山0.28m3 (平0.2m3)	100	m3			施工 第0 -0019号表
土木一般世話役 [0.753]	2.500	人			R0010
普通作業員 [0.842] 埋戻し+締固め	6.800	人			R0030
バックホウ運転 機-1 ｸﾛｰﾗ型 山0.28m3 (平積0.2m3)	7.600	h			SZ8020 施工 第0-0018号表
タンパ運転 機-31 60~80kg	3.000	日			SZK511 施工 第0-0020号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m3			
*** 単位当たり ***	1	m3			
A=1 ｸﾛｰﾗ型 山0.28m3 (平0.2m3)					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0036

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
タンパ運転 SZK511 機-31 60~80kg	1	日			施工 第0 -0020号表
特殊作業員 [0.780]	1.000	人			R0020
レギュラーガソリン スタンド	5.000	L			T0240
タンパ及びランマ 60~80kg	1.380	供用日			K2620
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 B=1 C=5 D=1.38 60~80kg 運転労務数量 燃料消費量 賃料数量					

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0037

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
路盤工 SZA240 下層路盤 一層仕上り厚さ 20cm	100	m2			施工 第0 -0021号表
普通作業員 [0.842]	0.780	人			R0030
再生骨材（骨材）クラッシュラン RC-40	25.400	m3			T8454
タンパ運転 機-31 60～80kg	0.450	日			SZK511 施工 第0-0022号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			
A=1 施工幅 1.8m未満 B=1 下層路盤 C=20 一層仕上り厚さ (cm) D=1 再生骨材 E=2 振動ロー 排出ガス対策型(第1基) 使用					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0038

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
タンパ運転 SZK511 機-31 60~80kg	1	日			施工 第0 -0022号表
特殊作業員 [0.780]	1.000	人			R0020
レギュラーガソリン スタンド	4.000	L			T0240
タンパ及びランマ 60~80kg	1.610	供用日			K2620
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 60~80kg B=1 運転労務数量 C=4 燃料消費量 D=1.61 賃料数量					

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0039

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
路盤工 SZA240 上層路盤 一層仕上り厚さ 15cm	100	m2			施工 第0 -0023号表
普通作業員 [0.842]	0.780	人			R0030
粒度調整碎石 M-40 40~0mm	19.050	m3			T8344
タンパ運転 機-31 60~80kg	0.450	日			SZK511 施工 第0-0022号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			
A=1 施工幅 1.8m未満 B=2 上層路盤 C=15 一層仕上り厚さ (cm) D=2 粒度調整碎石 E=2 振動ロー 排出ガス対策型(第1基) 使用					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0040

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アスファルト舗装工（人力）／車道・路肩 SZA320 粗粒度（20） 再生アスファルト合材を使用する	100	m2			施工 第0 -0024号表
土木一般世話役 [0.753]	0.400	人			R0010 100/250
特殊作業員 [0.780]	0.800	人			R0020 200/250
普通作業員 [0.842]	1.600	人			R0030 400/250
再生材アスファルト合材 粗粒度（20） 最大粒径20mm	12.573	t			T8410
アスファルト乳剤 PK-3プライム用、PK-4タック用	126.000	L			T0211
振動ローラ運転 機-23 ハンドガイド式 0.5～0.6t	0.400	日			SZK593 100/250 施工 第0-0025号表
振動コンパクタ運転 機-23 前進型 40～60kg	0.800	日			SZK730 200/250 施工 第0-0026号表
砂散布費	3.000	%			#01
諸雑費	17.000	%			#09
*** 合 計 ***	100	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			
A=5 仕上り厚（cm） B=2 粗粒度（20） C=1 混合AS使用しない D=2 プライムコート E=1 砂散布が必要					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0041

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
F=2 再生アスファルト合材を使用する					
*****	*****	*****	*****	*****	*****
振動ローラ運転 SZK593 機-23 ハンドガイド式 0.5~0.6t	1	日			施工 第0 -0025号表
特殊作業員 [0.780]	1.000	人			R0020
軽油 ミニローラー (パトロール給油)	3.000	L			T0250
振動ローラ [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	1.230	供用日			MD130
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 ハンドガイド式 0.5~0.6t B=3 燃料消費量 C=1.23 機械損料数量					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0042

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
振動コンパクト運転 SZK730 機-23 前進型 40~60kg	1	日			施工 第0 -0026号表
特殊作業員 [0.780]	1.000	人			R0020
レギュラーガソリン スタンド	5.000	L			T0240
振動コンパクト [前進型] 質量 40~60kg	1.400	供用日			MD180
諸雑費	1	式			#99
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 前進型 40~60kg B=5 燃料消費量 C=1.4 機械損料数量					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0043

[illegible]

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

頁0-0044

標準單價： 機械構成比： 勞務構成比： 材料構成比： 市場單價構成比：

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0045

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
硬質塩化ビニル管据付工 SZ0300 φ 7 5	10	m			施工 第0 -0029号表
特殊作業員 [0.780]	0.100	人			R0020
普通作業員 [0.842]	0.180	人			R0030
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 据付 B=8 φ 7 5					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0046

[illegible]

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0047

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
メカニカル継手工 SZ0020 φ 7 5 以下 押輪	1	口			施工 第0 -0031号表
特殊作業員 [0.780]	0.065	人			R0020 0.05*1.3
普通作業員 [0.842]	0.065	人			R0030 0.05*1.3
諸雑費	1.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	口			
A=1 継手 B=1 φ 7 5 以下 C=2 離脱防止継手 D=1 押輪 E=0 押しボルト数（特殊押輪使用の場合のみ）					
F=0 T頭ボルト数（特殊押輪使用の場合のみ） G=1 少ない H=1 良好					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0048

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
RR継手工 SZ0320 離脱防止金具 有り φ 7 5	1	口			施工 第0 -0032号表
特殊作業員 [0.780]	0.030	人			R0020
普通作業員 [0.842]	0.030	人			R0030
諸雑費	1.000	%			#09
割増（離脱防止金具使用）					+00
*** 単位当たり ***	1	口			
A=2 離脱防止金具 有り B=2 φ 7 5					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0050

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
硬質塩化ビニル管用鋳鉄異形管被覆工 SZ0330 曲管 φ 7 5	1	箇所			施工 第0 -0034号表
ポリエチレンスリーブ φ 7 5 × 5. 0 m	1.000	m			TZ8011
粘着テープ t = 0. 4 mm W = 5 0 mm	2.800	m			TZ8052
雑材料	2.000	%			#09
普通作業員 [0.842]	0.050	人			R0030
*** 単位当たり ***	1	箇所			
A=2 曲管 B=1 φ 7 5					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0051

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
管明示テープ工：硬質塩化ビニル管 SZ0340 φ75×5000 天端明示無し	100	m			施工 第0 -0035号表
普通作業員 [0.842]	0.100	人			R0030
管明示テープ（エコポリ製・印刷表示付） W50mm×t0.15mm 粘着	100.000	m			TZ7112
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=3 B=100 C=2 φ75×5000 天端明示無し 管明示テープ数量 (m) エコポリ製・印刷表示付 W50mm×t0.15mm 粘着					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0052

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
排泥土工 V2002 市道路肩部 HIVPφ75 DP=1.20m	1	式			施工 第0 -0036号表 特単単価適用日：08年09月01日
機械掘削工 クローラ型 山0.28m3 (平0.2m3)	5.7	m3			SZA211 施工 第0-0017号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m3 (平0.2m3)	1.5	m3			SZA221 施工 第0-0019号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m3 (平0.2m3)	4.1	m3			SZA221 施工 第0-0019号表
ダンプ運搬工 (4 t 積車) 運搬距離 L=2km クローラ型 山0.28m3 (平0.20m3)	1.6	m3			SZA260 施工 第0-0027号表
整地 残土受入れ地での処理	1.6	m3			SPA109 施工 第0-0028号表
クリンカアッシュ (土質改良材) (単位容積重量 1.0 t/m3)	2.0	t			TU360
*** 単位当たり ***	1	式			

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0054

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
不断水土工 V2003 市道車道舗装部 DP=1.20m	1	式			施工 第0 -0038号表 特単単価適用日：08年09月01日
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下	25.36	m			SPD321 施工 第0-0012号表
舗装版直接掘削積込み工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³) 舗装厚 0cm超え10cm以下	8.7	m ²			SZA231 施工 第0-0013号表
ダンプ運搬工 (4t積車) 運搬距離 L=9.8km クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³)	0.4	m ³			SZA260 施工 第0-0015号表
機械掘削工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	13.4	m ³			SZA211 施工 第0-0017号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	4.9	m ³			SZA221 施工 第0-0019号表
機械埋戻工 クローラ型 山0.28m ³ (平0.2m ³)	6.0	m ³			SZA221 施工 第0-0019号表
路盤工 下層路盤 一層仕上り厚さ 20cm	8.7	m ²			SZA240 施工 第0-0021号表
路盤工 上層路盤 一層仕上り厚さ 15cm	8.7	m ²			SZA240 施工 第0-0023号表
アスファルト舗装工 (人力) / 車道・路肩 粗粒度 (20) 再生アスファルト合材を使用する	8.7	m ²			SZA320 施工 第0-0024号表
ダンプ運搬工 (4t積車) 運搬距離 L=2km クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³)	13.9	m ³			SZA260 施工 第0-0027号表
整地 残土受入れ地での処理	13.9	m ³			SPA109 施工 第0-0028号表
クリンカアッシュ (土質改良材) (単位容積重量 1.0t/m ³)	6.5	t			TU360

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0055

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
再生骨材（骨材）クラッシュラン RC-40	7.6	m3			T8454
土留工(軽量鋼矢板たて込み)(両側分)：機械 掘削深 2.0m以下 軽量金属製支保工	4.4	m			SZA020 施工 第0-0039号表
*** 単位当たり ***	1	式			
*****	*****	*****	*****	*****	*****
土留工(軽量鋼矢板たて込み)(両側分)：機械 SZA020 掘削深 2.0m以下 軽量金属製支保工	100	m			施工 第0-0039号表
軽量鋼矢板たて込み工(両側分)：機械 掘削深 2.0m以下 クローラ型 山0.28m3 (平0.20m3)	100.000	m			SZA041 施工 第0-0040号表
軽量鋼矢板引抜き工(両側分)：機械 掘削深 2.0m以下 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型4.9t吊	100.000	m			SZA045 施工 第0-0041号表
支保工(軽量金属製) 設置撤去 1段：2.0m以下 軽量金属腹起し材 水圧式パイプサポート	100.000	m			SZA065 施工 第0-0042号表
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 建込み・引抜き B=2 掘削深 2.0m以下 C=3 クローラ型 山0.28m3 (平0.20m3) D=2 バックホウ 排ガス対策型(第1次基準値)使用 E=2 軽量金属製支保工(J,K,L,M条件選択)					
F=1 木製支保工：設置撤去 G=1 木矢板 2.0m未満 H=0 木製支保工：腹起し材数量(本/100m) I=0 木製支保工：切りばり材数量(m3/100m) J=1 軽量金属製支保工：設置撤去					
K=1 1段：2.0m以下 L=1 軽量金属腹起し材 M=1 水圧式パイプサポート N=1 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型4.9t吊					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0056

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽量鋼矢板たて込み工(両側分)：機械 SZA041 掘削深 2.0m以下 クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³)	100	m			施工 第0 -0040号表
土木一般世話役 [0.753]	2.000	人			R0010
特殊作業員 [0.780]	2.000	人			R0020
普通作業員 [0.842]	6.000	人			R0030
バックホウ運転 機-1 クローラ型 山0.28m ³ (平積0.2m ³)	11.600	h			SZ8020 施工 第0-0014号表
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=2 掘削深 2.0m以下 B=1 クローラ型 山0.28m ³ (平0.20m ³) C=2 排出ガス対策型 (第1次基準値) 使用					

000000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0057

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽量鋼矢板引抜工(両側分)：機械 SZA045 掘削深 2.0m以下 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型4.9t吊	100	m			施工 第0 -0041号表
土木一般世話役 [0.753]	0.900	人			R0010
特殊作業員 [0.780]	0.900	人			R0020
普通作業員 [0.842]	2.700	人			R0030
トラッククレーン賃料 油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	1.000	日			K0005
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=2 B=1 掘削深 2.0m以下 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型4.9t吊					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0058

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
支保工(軽量金属製) 設置撤去 SZA065 1段：2.0m以下 軽量金属腹起し材 水圧式パイプサポート	100	m			施工 第0 -0042号表
腹起し材設置撤去工 軽量金属腹起し材 1段：2.0m以下	100.000	m			SZA070 施工 第0-0043号表
切梁材設置撤去工 水圧式パイプサポート 1段：2.0m以下	100.000	m			SZA080 施工 第0-0044号表
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 設置撤去 B=1 1段：2.0m以下 C=1 軽量金属腹起し材 D=1 水圧式パイプサポート					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0059

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
腹起し材設置撤去工 SZA070 軽量金属腹起し材 1段：2.0m以下	100	m			施工 第0 -0043号表
世話役（設置） [0.753]	0.400	人			R0010
世話役（撤去） [0.753]	0.300	人			R0010
特殊作業員（設置） [0.780]	0.400	人			R0020
特殊作業員（撤去） [0.780]	0.300	人			R0020
普通作業員（設置） [0.842]	1.200	人			R0030
普通作業員（撤去） [0.842]	0.900	人			R0030
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 B=1 設置撤去 軽量金属腹起し材 1段：2.0m以下					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0060

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
切梁材設置撤去工 SZA080 水圧式ハブ式 1段：2.0m以下	100	m			施工 第0 -0044号表
世話役（設置） [0.753]	0.200	人			R0010
世話役（撤去） [0.753]	0.200	人			R0010
特殊作業員（設置） [0.780]	0.200	人			R0020
特殊作業員（撤去） [0.780]	0.200	人			R0020
普通作業員（設置） [0.842]	0.600	人			R0030
普通作業員（撤去） [0.842]	0.600	人			R0030
諸雑費	1	式			#99
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=1 設置撤去 B=1 水圧式ハブ式 1段：2.0m以下					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0061

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ステンレス鋼管電気溶接工 SZ0240 φ150 板厚5.0mm 直流溶接	1	箇所			施工 第0 -0045号表
ステンレス溶接工（溶接工） [0.835]	0.504	人			R0250 0.42*1.2
特殊作業員 [0.780]	1.008	人			R0020 0.84*1.2
土木一般世話役 [0.753]	0.504	人			R0010 0.42*1.2
諸雑費（材料費及び器具損料）	9.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	箇所			
A=11 φ150 板厚5.0mm B=2 直流溶接 C=1 少ない D=1 良好 E=3 10口以下					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0062

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
フランジ継手工 SZ0040 Φ75(80) JWWA 7.5K	1	口			施工 第0 -0046号表
特殊作業員 [0.780]	0.060	人			R0020 0.06*1
普通作業員 [0.842]	0.060	人			R0030 0.06*1
諸雑費	1.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	口			
A=1 継手 B=1 JWWA 7.5K C=2 Φ75(80) D=4 取替ボルト数					

空気弁設置工（人力施工） SZ0600 空気弁設置 Φ13～25	1	基			施工 第0 -0047号表
特殊作業員 [0.780]	0.050	人			R0020
普通作業員 [0.842]	0.100	人			R0030
諸雑費	1.000	%			#09
*** 単位当たり ***	1	基			
A=1 空気弁設置 B=1 Φ13～25 C=1 設置					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0063

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
防護コンクリート工 V2004 2箇所	1	式			施工 第0 -0048号表 特単単価適用日：08年09月01日
コンクリート 小型構造物 人力打設	5.92	m3			SPB401 施工 第0-0049号表
現場打基礎コンクリート 18-8-40-60%普通 基礎碎石あり	0.24	m3			SPA463 施工 第0-0050号表
型枠 一般型枠 小型構造物	26.71	m2			SPB431 施工 第0-0051号表
型枠 一般型枠 均しコンクリート	0.88	m2			SPB431 施工 第0-0052号表
基礎碎石 17.5cmを超え20.0cm以下 クラッシュラン C-40	2.42	m2			SPA391 施工 第0-0053号表
*** 単位当たり ***	1	式			

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施工パッケージ内訳表

頁0-0064

標準単価：機械構成比：労務構成比：材料構成比：市場単価構成比：

代表機労材規格(積算地区)	単価(積算地区)	構成比	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)
コンクリート SPB401 小型構造物 標準単価：36,756 機械構成比：0.00% 労務構成比：41.15% 材料構成比：58.85% 市場単価構成比：0.00%	人力打設 0.00%		施工 第0 -0049号表 1	m3
普通作業員 [0.842] R0030		22.25%	普通作業員 TPR0030	
土木一般世話役 [0.753] R0010		9.19%	土木一般世話役 TPR0010	
特殊作業員 [0.780] R0020		7.69%	特殊作業員 TPR0020	
生コンクリート ② 18-8-40-60% T8600		58.85%	生コンクリート 24-12-25 高炉 W/C 55% TPTC618	
*** 単位当たり ***				
A=2 小型構造物 B=4 人力打設 E=2 一般養生 G=2 現場内小運搬なし K=1 普通				
L=13 18-8-40-60% M=1 小型車割増なし N=1 冬期割増なし O=1 全ての費用 P=1 土木工事標準積算基準 Ⅱ-4-①-4				

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施工パッケージ内訳表

頁0-0065

標準単価： 機械構成比： 労務構成比： 材料構成比： 市場単価構成比：

代表機労材規格(積算地区)	単価(積算地区)	構成比	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)
現場打基礎コンクリート SPA463 18-8-40-60%普通 標準単価： 81,736 機械構成比： 2.09% 労務構成比： 67.80% 材料構成比： 30.11% 市場単価構成比： 0.00%	基礎碎石あり		施工 第0 -0050号表 1 m3	
K9205 バックホウ [ｸﾛｰﾗ型・ｸﾚｰﾝ機能付] 2.9t 吊 山積0.8m3 (平積0.6m3)		1.47%	TPK9205 バックホウ [ｸﾛｰﾗ型・ｸﾚｰﾝ付] 賃料	
K9203 バックホウ [ｸﾛｰﾗ型] 山積0.8m3 (平積0.6m3)		0.62%	TPK9203 バックホウ [ｸﾛｰﾗ型] 賃料	
R0030 普通作業員 [0.842]		18.74%	TPR0030 普通作業員	
R0260 型わく工 [0.882]		17.98%	TPR0260 型わく工	
R0010 土木一般世話役 [0.753]		10.22%	TPR0010 土木一般世話役	
R0020 特殊作業員 [0.780]		10.17%	TPR0020 特殊作業員	
T8600 生コンクリート ② 18-8-40-60%		25.85%	TPT8251 生コンクリート 18-8-25 高炉 W/C60%	
T0250 軽油 ミニローリー (パトロール給油)		1.42%	TPT0250 軽油 1.2号 パトロール給油	
*** 単位当たり ***				
B=1 基礎碎石あり C=1 一般養生・特殊養生(練炭) D=1 普通 E=13 18-8-40-60% F=1 小型車割増なし				

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施工パッケージ内訳表

頁0-0066

標準単価： 機械構成比： 労務構成比： 材料構成比： 市場単価構成比：

代表機労材規格(積算地区)	単価(積算地区)	構成比	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)
G=1 冬期割増なし H=1 土木工事標準積算基準 Ⅱ-2-③-2 1				
*****	*****	*****	*****	*****
型枠 SPB431 一般型枠 標準単価： 9,147.6 機械構成比： 0.00% 労務構成比： 100.00% 材料構成比： 0.00% 市場単価構成比： 0.00%	小型構造物		施工 第0 -0051号表 1	m2
型わく工 [0.882] R0260		44.28%	型わく工 TPR0260	
普通作業員 [0.842] R0030		30.82%	普通作業員 TPR0030	
土木一般世話役 [0.753] R0010		11.86%	土木一般世話役 TPR0010	
*** 単位当たり ***				
A=1 一般型枠 B=2 小型構造物 C=1 土木工事標準積算基準 Ⅱ-4-②-2				

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施工パッケージ内訳表

頁0-0067

標準単価： 機械構成比： 労務構成比： 材料構成比： 市場単価構成比：

代表機労材規格(積算地区)	単価(積算地区)	構成比	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)
型枠 SPB431 一般型枠 標準単価： 5,104.7 機械構成比： 0.00% 労務構成比： 100.00% 材料構成比： 0.00% 市場単価構成比： 0.00%	均しコンクリート		施工 第0 -0052号表 1	m2
型わく工 [0.882] R0260		58.78%	型わく工 TPR0260	
普通作業員 [0.842] R0030		19.90%	普通作業員 TPR0030	
土木一般世話役 [0.753] R0010		6.07%	土木一般世話役 TPR0010	
*** 単位当たり ***				
A=1 一般型枠 B=5 均しコンクリート C=1 土木工事標準積算基準 Ⅱ－4－②－2				

施工パッケージ内訳表

頁0-0068

標準単価： 機械構成比： 労務構成比： 材料構成比： 市場単価構成比：

代表機労材規格(積算地区)	単価(積算地区)	構成比	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)
基礎碎石 SPA391 17.5cmを超え20.0cm以下 標準単価： 1,407.6 機械構成比： 4.78% 労務構成比： 70.31% 材料構成比： 24.91% 市場単価構成比： 0.00%			施工 第0 -0053号表 1 m2	
バックホウ [クローラ型] 山積0. 8 m3 (平積0. 6 m3) K9203		4.75%	バックホウ [クローラ型] 賃料 TPK9203	
普通作業員 [0.842] R0030		33.80%	普通作業員 TPR0030	
特殊作業員 [0.780] R0020		14.27%	特殊作業員 TPR0020	
運転手 (特殊) [0.788] R0120		13.24%	運転手 (特殊) TPR0120	
土木一般世話役 [0.753] R0010		8.52%	土木一般世話役 TPR0010	
クラッシャラン C-40 40～0mm T8321		20.46%	再生クラッシャラン RC-40 TPT8454	
軽油 ミニローリー (パトロール給油) T0250		4.42%	軽油 1. 2号 パトロール給油 TPT0250	
*** 単位当たり ***				
A=4 C=1 D=1 E=1 17.5cmを超え20.0cm以下 クラッシャラン C-40 全ての費用 土木工事標準積算基準 II-2-②-2				

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

施 工 内 訳 表

頁0-0069

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプ運搬工（4 t 積車） SZA260 運搬距離 L=8.7km クローラ型 山0.28m3（平0.20m3）	1	m3			施工 第0 -0054号表
ダンプトラック運転 機-22 4 t 積級	0.800	日			SZK506 0.8*1 施工 第0-0016号表
10m3当り→1m3当り		m3			+00
*** 単位当たり ***	1	m3			
A=8.7 運搬距離 (km) B=2 ダンプトラック 4 t 積車 C=3 クローラ型 山0.28m3（平0.20m3） D=1 土砂 E=1 D I D区間：なし					
F=1 良 好					

工事名標示板加算額 S9990	1	基			施工 第0 -0055号表
工事名標示板加算額 （木材使用・据付撤去含む）	1.000	基			T9940
*** 単位当たり ***	1	基			
A=1 土木工事標準積算基準 I-2-②-24					

00000000000

南 相 馬 市

金抜き

令和 8 年度

第

号

経年管更新事業
配水管布設替（馬場字川原田地区）工事
南相馬市原町区馬場字川原田 地内

数 量 計 算 書

令和 8 年 9 月

南 相 馬 市 役 所

数 量 計 算 書

管路布設（馬場地区）工 事

1. 配管布設工

① DCIP (K形) $\phi 150$

施工延長 $L = 11.2 \text{ m}$
(27.709-16.490 (水管橋) = 11.219)

排泥管布設 (1箇所)

① HIVP $\phi 75$

施工延長 $L = 7.4 \text{ m}$
(7.387)

2. 不断水工

不断水分岐バルブ (K形受け口) $\phi 150 \times 150$ 2.0 箇所

不断水簡易仕切弁 既設DCIP $\phi 150$ 用 2.0 箇所

3. 水管橋設置工

水管橋設置工 $L=16.490\text{m}$ 1 式
(1.405+13.680+1.405)

1. 配管布設工

① K形ダクタイル鑄鉄管 $\phi 150$ 施工延長 L = 11.2 m
 布設延長 L = 11.2 m
 (11.219)

排泥管布設

① HIVP $\phi 75$ 施工延長 L = 7.4 m
 布設延長 L = 7.4 m
 (7.387)

土工 { 本管土工 掘削深H=1.47m (H=1.469m) K形 $\phi 150$ L = 6.55 m
 DP=1.20m W=0.55 As=5cm (5.35+1.20)
 (市道車道部)
 本管土工 掘削深H=1.47m (H=1.469m) K形 $\phi 150$ L = 4.75 m
 DP=1.20m W=0.55 (4.75)
 (市道路肩部)
 排泥管土工 掘削深H=1.47m (H=1.469m) HIVP $\phi 75$ L = 7.40 m
 DP=1.20m W=0.55 (7.387)
 (市道路肩部)

1. 配管布設工

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

土量集計表

[illegible]

產 廢 処 分 量 集 計 表

[illegible]

本管土工	土被り = 1.20	管径 = $\phi 150$	掘削幅 = 0.55
(市道車道部)	舗装厚 = 0.05	仮復旧厚 = 0.05	本管土工延長 = 6.55
		上層路盤厚 = 0.15	
		下層路盤厚 = 0.20	

種 別	算 式		1m当り	単 位
	掘削幅	高さ 1m		
(土 工)				
舗 装 切 断 工		1.0 × 2	2.0000	m
舗 装 取 壊 工	0.55	× 1.0	0.5500	m ²
As ガ ラ 運 搬	0.55 × 0.05	× 1.0	0.0275	m ³
産 廃 処 理	0.55 × 0.05 × 2.35	× 1.0	0.0646	t
機 械 床 堀	0.55 × 1.42	× 1.0	0.7810	m ³
埋戻工 (クリンカー)	0.55 × 0.47 - 0.0227	× 1.0	0.2358	m ³
砕 石 埋 戻 工	0.55 × 0.60	× 1.0	0.3300	m ³
下 層 路 盤 工	0.55	× 1.0	0.5500	m ²
上 層 路 盤 工	0.55	× 1.0	0.5500	m ²
仮 復 旧 工	0.55	× 1.0	0.5500	m ²
残 土 処 理 工	0.55 × 1.42	× 1.0	0.7810	m ³
	$\phi 150$ 水道管の断面積 = $0.785 \times 0.170^2 = 0.0227$			

(土 工)

 本管土工 土被り = 1.20
 (市道車道部) 管径 = $\phi 150$

本管土工延長 = 6.55

種 別	項 目		数 量	単 位
舗 装 切 断 工	t = 5cm	6.55 × 2.0000	13.10	m
舗 装 取 壊 工	t = 5cm	6.55 × 0.5500	3.6	m ²
As ガ ラ 運 搬		6.55 × 0.0275	0.2	m ³
産 廃 処 理	As	6.55 × 0.0646	0.4	t
機 械 床 堀 工		6.55 × 0.7810	5.1	m ³
埋 戻 工	クリンカー	6.55 × 0.2358	1.5	m ³
埋 戻 工	再生砕石 RC-40	6.55 × 0.3300	2.2	m ³
下 層 路 盤 工	再生砕石 t = 20cm	6.55 × 0.5500	3.6	m ²
上 層 路 盤 工	粒調砕石 t = 15cm	6.55 × 0.5500	3.6	m ²
仮 復 旧 工	再生粗粒度A s 20 t = 5cm	6.55 × 0.5500	3.6	m ²
残 土 処 理 工		6.55 × 0.7810	5.1	m ³

本管土工	土被り = 1.20	管径 = $\phi 150$	掘削幅 = 0.55
(市道路肩部)	舗装厚 = 0.00	仮復旧厚 = 0.00	本管土工延長 = 4.75
		上層路盤厚 = 0.00	
		下層路盤厚 = 0.00	

種 別	算 式		1m当り	単 位
	掘削幅	高さ 1m		
(土 工)				
舗 装 切 断 工		0.0 × 2	0.0000	m
舗 装 取 壊 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
As ガ ラ 運 搬	0.55 × 0.00	× 1.0	0.0000	m ³
産 廃 処 理	0.55 × 0.00 × 2.35	× 1.0	0.0000	t
機 械 床 堀	0.55 × 1.47	× 1.0	0.8085	m ³
埋戻工 (クリンカー)	0.55 × 0.47 - 0.0227	× 1.0	0.2358	m ³
在 来 土 埋 戻 工	0.55 × 1.00	× 1.0	0.5500	m ³
下 層 路 盤 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
上 層 路 盤 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
仮 復 旧 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
残 土 処 理 工	0.55 × 0.47	× 1.0	0.2585	m ³
	$\phi 150$ 水道管の断面積 = $0.785 \times 0.170^2 = 0.0227$			

(土 工)

本管土工 土被り = 1.20
(市道路肩部) 管径 = $\phi 150$

本管土工延長 = 4.75

種 別	項 目		数 量	単 位
舗 装 切 断 工	t = 0cm	4.75 × 0.0000	0.0	m
舗 装 取 壊 工	t = 0cm	4.75 × 0.0000	0.0	m ²
As ガ ラ 運 搬		4.75 × 0.0000	0.0	m ³
産 廃 処 理	As	4.75 × 0.0000	0.0	t
機 械 床 堀 工		4.75 × 0.8085	3.8	m ³
埋 戻 工	クリンカー	4.75 × 0.2358	1.1	m ³
埋 戻 工	在来土	4.75 × 0.5500	2.6	m ³
下 層 路 盤 工	再生砕石 t = 0cm	4.75 × 0.0000	0.0	m ²
上 層 路 盤 工	粒調砕石 t = 0cm	4.75 × 0.0000	0.0	m ²
仮 復 旧 工	再生粗粒度A s 20 t = 0cm	4.75 × 0.0000	0.0	m ²
残 土 処 理 工		4.75 × 0.2585	1.2	m ³

排泥土工	土被り = 1.20	管径 = $\phi 75$	掘削幅 = 0.55
(市道路肩部)	舗装厚 = 0.00	仮復旧厚 = 0.00	本管土工延長 = 7.40
		上層路盤厚 = 0.00	
		下層路盤厚 = 0.00	

	種 別	算 式		1m当り	単 位
		掘削幅	高さ 1m		
	(土 工)				
	舗 装 切 断 工		0.0 × 2	0.0000	m
	舗 装 取 壊 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
	As ガ ラ 運 搬	0.55 × 0.00	× 1.0	0.0000	m ³
	産 廃 処 理	0.55 × 0.00 × 2.35	× 1.0	0.0000	t
	機 械 床 堀	0.55 × 1.39	× 1.0	0.7645	m ³
	埋戻工 (クリンカー)	0.55 × 0.39 - 0.0064	× 1.0	0.2081	m ³
	在 来 土 埋 戻 工	0.55 × 1.00	× 1.0	0.5500	m ³
	下 層 路 盤 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
	上 層 路 盤 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
	仮 復 旧 工	0.55	× 0.0	0.0000	m ²
	残 土 処 理 工	0.55 × 0.39	× 1.0	0.2145	m ³
		$\phi 75$ 水道管の断面積 = $0.785 \times 0.090^2 = 0.0064$			

(土 工)

 排泥土工 土被り = 1.20
 (市道路肩部) 管径 = $\phi 75$

本管土工延長 = 7.40

	種 別	項 目		数 量	単 位
	舗 装 切 断 工	t = 0cm	7.40 × 0.0000	0.00	m
	舗 装 取 壊 工	t = 0cm	7.40 × 0.0000	0.0	m ²
	As ガ ラ 運 搬		7.40 × 0.0000	0.0	m ³
	産 廃 処 理	As	7.40 × 0.0000	0.0	t
	機 械 床 堀 工		7.40 × 0.7645	5.7	m ³
	埋 戻 工	クリンカー	7.40 × 0.2081	1.5	m ³
	埋 戻 工	在来土	7.40 × 0.5500	4.1	m ³
	下 層 路 盤 工	再生砕石 t = 0cm	7.40 × 0.0000	0.0	m ²
	上 層 路 盤 工	粒調砕石 t = 0cm	7.40 × 0.0000	0.0	m ²
	仮 復 旧 工	再生粗粒度A s 20 t = 0cm	7.40 × 0.0000	0.0	m ²
	残 土 処 理 工		7.40 × 0.2145	1.6	m ³

不断水簡易仕切弁土工 (市道車道部)	土被り = 1.20 舗装厚 = 0.05	管径 = $\phi 150$ 仮復旧厚 = 0.05 上層路盤厚 = 0.15 下層路盤厚 = 0.20	掘削幅 = 1.40 × 1.74 本管土工延長 = 2ヶ所
-----------------------	--------------------------	--	-----------------------------------

種 別	算 式		1ヶ所当り	単 位
	掘削幅	長さ		
(土 工)				
舗 装 切 断 工	1.40 + 1.74	3.14 × 2	6.2800	m
舗 装 取 壊 工	1.40 × 1.74		2.4360	m ²
As ガ ラ 運 搬	1.40 × 1.74	× 0.05	0.1218	m ³
産 廃 処 理	1.40 × 1.74	× 2.35 × 0.05	0.2862	t
機 械 床 堀	1.40 × 1.74	× 1.455	3.5444	m ³
埋戻工 (クリンカー)	1.40 × 1.74	-(0.0227 × 1.74) × 0.455	1.0904	m ³
砕 石 埋 戻 工	1.40 × 1.74	× 0.750	1.8270	m ³
下 層 路 盤 工	1.40	× 1.74	2.4360	m ²
上 層 路 盤 工	1.40	× 1.74	2.4360	m ²
仮 復 旧 工	1.40	× 1.74	2.4360	m ²
残 土 処 理 工	1.40 × 1.74	× 1.555	3.7880	m ³
	$\phi 150$ 水道管の断面積 = $0.785 \times 0.170^2 = 0.0227$			

(土 工)

不断水簡易仕切弁土工 土被り = 1.20
(市道車道部) 管径 = $\phi 150$

本管土工延長 = 2ヶ所

種 別	項 目		数 量	単 位
舗 装 切 断 工	t =5cm	2ヶ所 × 6.2800	12.56	m
舗 装 取 壊 工	t =5cm	2ヶ所 × 2.4360	4.9	m ²
As ガ ラ 運 搬		2ヶ所 × 0.1218	0.2	m ³
産 廃 処 理	As	2ヶ所 × 0.2862	0.6	t
機 械 床 堀 工		2ヶ所 × 3.5444	7.1	m ³
埋 戻 工	クリンカー	2ヶ所 × 1.0904	2.2	m ³
埋 戻 工	再生砕石 RC-40	2ヶ所 × 1.8270	3.7	m ³
下 層 路 盤 工	再生砕石 t =20cm	2ヶ所 × 2.4360	4.9	m ²
上 層 路 盤 工	粒調砕石 t =15cm	2ヶ所 × 2.4360	4.9	m ²
仮 復 旧 工	再生粗粒度A s 20 t =5cm	2ヶ所 × 2.4360	4.9	m ²
残 土 処 理 工		2ヶ所 × 3.7880	7.6	m ³

不断水仕切弁土工 (市道車道部)	土被り = 1.20 舗装厚 = 0.05	管径 = $\phi 150$ 仮復旧厚 = 0.05 上層路盤厚 = 0.15 下層路盤厚 = 0.20	掘削幅 = $1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20$ 本管土工延長 = 1ヶ所
---------------------	--------------------------	--	---

種 別	算 式		1ヶ所当り	単 位
	掘削幅	長さ		
(土 工)				
舗 装 切 断 工	$(1.20 + 2.20) \times 2$		6.4000	m
舗 装 取 壊 工	$1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20$		1.9200	m ²
As ガ ラ 運 搬	$1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20 \times 0.05$		0.0960	m ³
産 廃 処 理	$1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20 \times 0.05 \times 2.35$		0.2256	t
機 械 床 堀	$1.20 \times 1.00 \times 1.715 + 0.60 \times 1.20 \times 1.532$		3.1610	m ³
埋戻工 (クリンカー)	$1.20 \times 1.00 \times 0.765 + 0.60 \times 1.20 \times 0.582$		1.3370	m ³
砕 石 埋 戻 工	$(1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20) \times 0.600$		1.1520	m ³
下 層 路 盤 工	$1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20$		1.9200	m ²
上 層 路 盤 工	$1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20$		1.9200	m ²
仮 復 旧 工	$1.20 \times 1.00 + 0.60 \times 1.20$		1.9200	m ²
残 土 処 理 工			3.1610	m ³
	$\phi 150$ 水道管の断面積 = $0.785 \times 0.170^2 = 0.0227$			

(土 工)

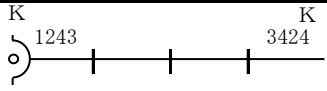
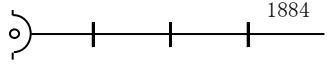
不断水仕切弁土工 土被り = 1.20
(市道車道部) 管径 = $\phi 150$

本管土工延長 = 2ヶ所

種 別	項 目		数 量	単 位
舗 装 切 断 工	t = 5cm	2ヶ所 $\times$ 6.4000	12.80	m
舗 装 取 壊 工	t = 5cm	2ヶ所 $\times$ 1.9200	3.8	m ²
As ガ ラ 運 搬		2ヶ所 $\times$ 0.0960	0.2	m ³
産 廃 処 理	As	2ヶ所 $\times$ 0.2256	0.5	t
機 械 床 堀 工		2ヶ所 $\times$ 3.1610	6.3	m ³
埋 戻 工	クリンカー	2ヶ所 $\times$ 1.3370	2.7	m ³
埋 戻 工	再生砕石 RC-40	2ヶ所 $\times$ 1.1520	2.3	m ³
下 層 路 盤 工	再生砕石 t = 20cm	2ヶ所 $\times$ 1.9200	3.8	m ²
上 層 路 盤 工	粒調砕石 t = 15cm	2ヶ所 $\times$ 1.9200	3.8	m ²
仮 復 旧 工	再生粗粒度A s 20 t = 5cm	2ヶ所 $\times$ 1.9200	3.8	m ²
残 土 処 理 工		2ヶ所 $\times$ 3.1610	6.3	m ³

K形ダクタイル鋳鉄管切管調書 (φ150)

L = 5,000

切管組み合わせ	原管形式	管種	有効長			残管	切管個所数
			甲切管	乙切管	乙切管		
	K-K	3種管	1,243 ①	3,424 ①		333	2
	K-K	3種管		1,884 ②		3,116	1
K形ダクタイル鋳鉄管 (φ150)			2	本	切管個所数	3箇所	

排泥管数量 (HIVP φ75)

切管調書 (排泥)								
管種	口径	直管	乙切り	乙切り	乙切り	乙切り	残管	切断工
硬質塩化ビニル管	φ75	4,000						
硬質塩化ビニル管	φ75	4,000	300	2,200			(1500)	2
合計		2 本						2 箇所

※ 硬質塩化ビニル管は、プレーンエンド直管を示す。

2. 不断水工

不断水分岐バルブ (K形受け口) $\phi 150 \times 150$	2.0	箇所
不断水簡易仕切弁 DCIP $\phi 150$ 用	2.0	箇所

3. 不斷水工

[illegible]

[illegible]

3. 水管橋設置工

水管橋設置	1.0	式
防護コンクリート工	1.0	式

3. 水管橋設置工

[illegible]

[illegible]

交通誘導員作業日数計算書

安全費(交通誘導員)

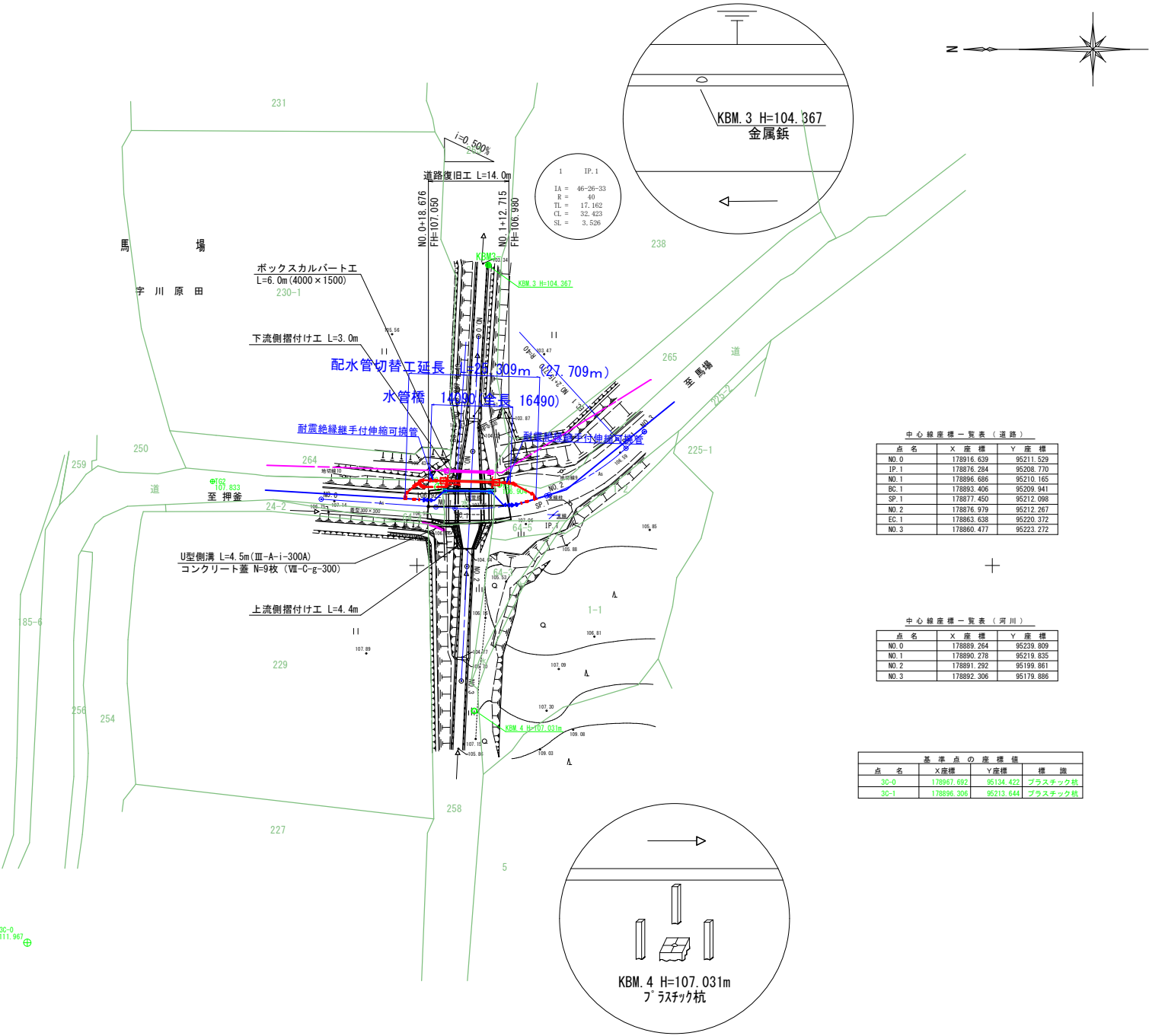
[illegible]

安全費

[illegible]

平 面 図
南 相 馬 市 原 町 区

縮尺 S=1:500



中心線座標一覧表 (道路)			
点 名	X 座 標	Y 座 標	
NO. 0	178916.639	95211.529	
IP. 1	178876.284	95208.770	
NO. 1	178895.686	95210.165	
SC. 1	178893.406	95209.941	
SP. 1	178877.450	95212.098	
NO. 2	178876.979	95212.267	
EC. 1	178863.638	95220.372	
NO. 3	178860.477	95223.272	

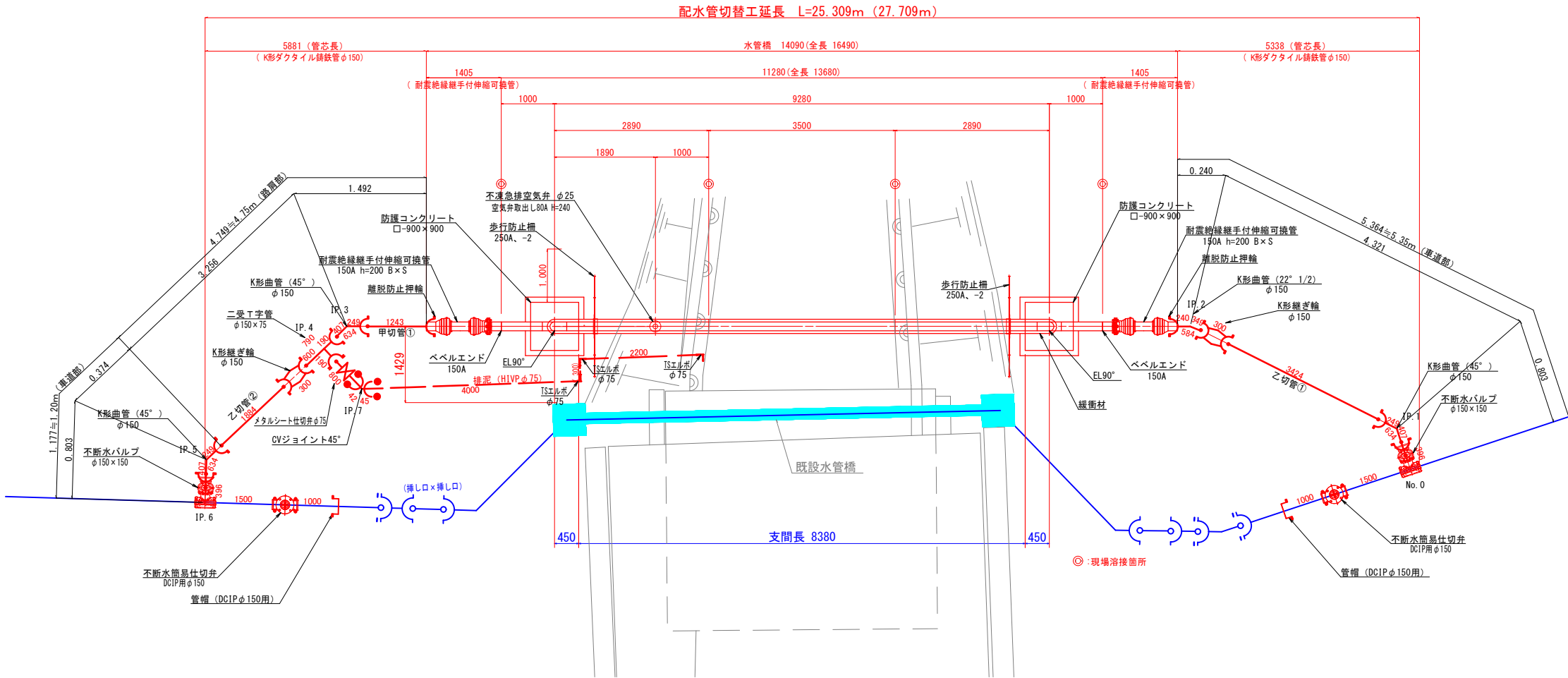
中心線座標一覧表 (河川)			
点 名	X 座 標	Y 座 標	
NO. 0	178889.264	95219.809	
NO. 1	178890.278	95219.835	
NO. 2	178891.292	95199.861	
NO. 3	178892.306	95179.886	

基 準 点 の 座 標 値				
点 名	X座標	Y座標	標 識	
30-0	178967.692	95134.422	プラスチック杭	
30-1	178896.306	95213.644	プラスチック杭	

平成 8 年度			
南相馬市原町区馬場字川原田地内			
経年管更新事業配水管布設替 (馬場字川原田地区) 工事			
平 面 図			
縮尺	S=1:500	図面番号	1 / 5
測量		主 任 技 術 者	
設計	株式会社 日建	管 理 技 術 者	
福 島 県 南 相 馬 市			

配 管 図

S=1:50

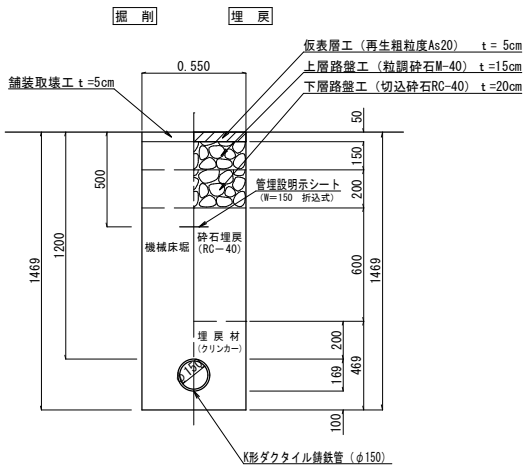


配水管土工標準図

S=1:20

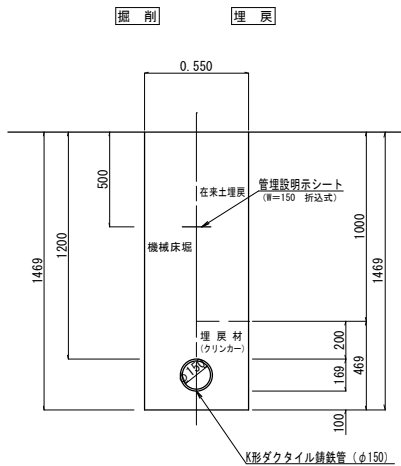
配水管土工（市道車道部）

K形ダクタイル鋳鉄管 φ150 (DP=1.20m)
(L=5.35+1.20=6.55m)



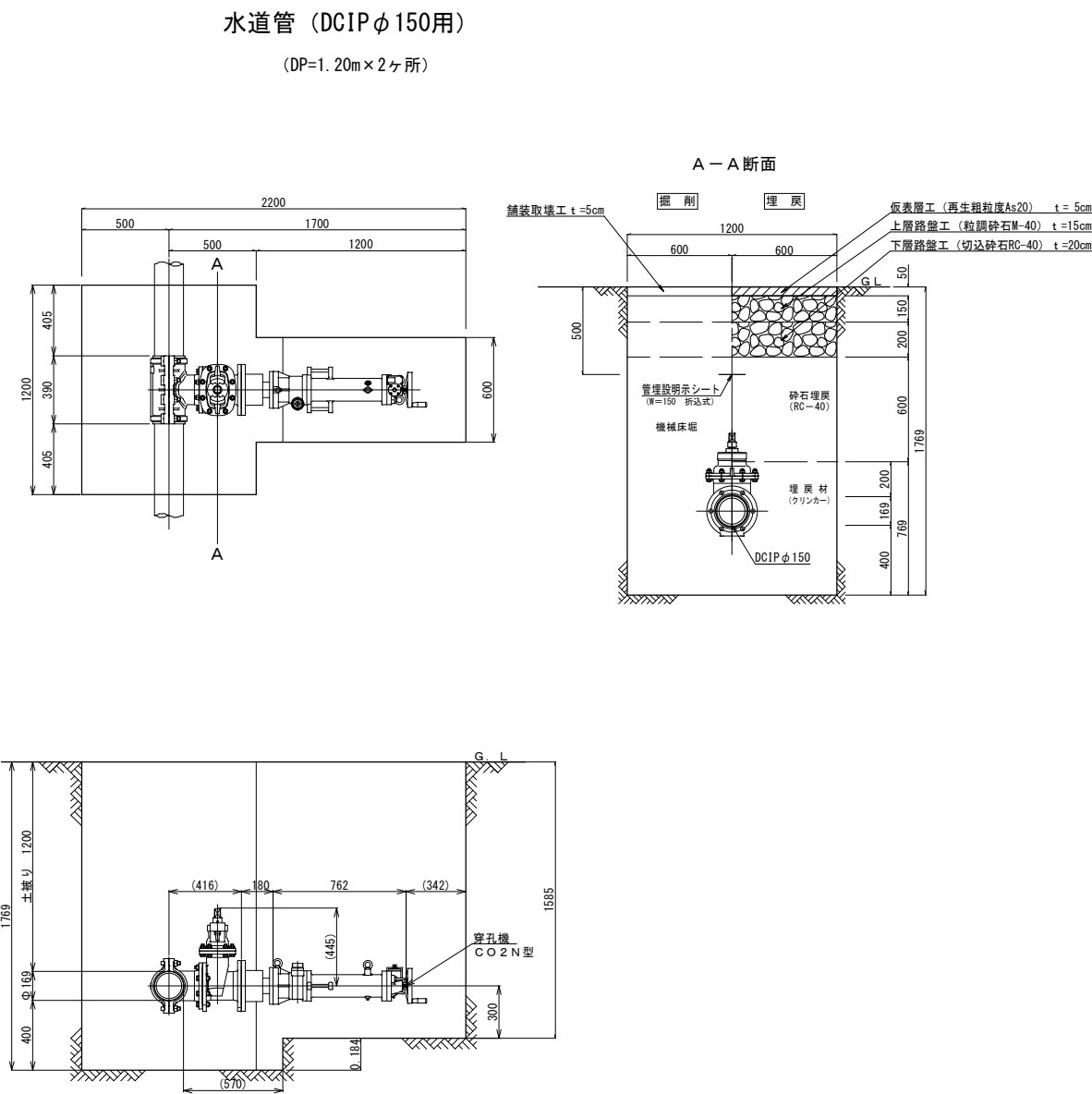
配水管土工（市道路肩部）

K形ダクタイル鋳鉄管 φ150 (DP=1.20m)
(L=4.75m) (排泥 L=7.40m)

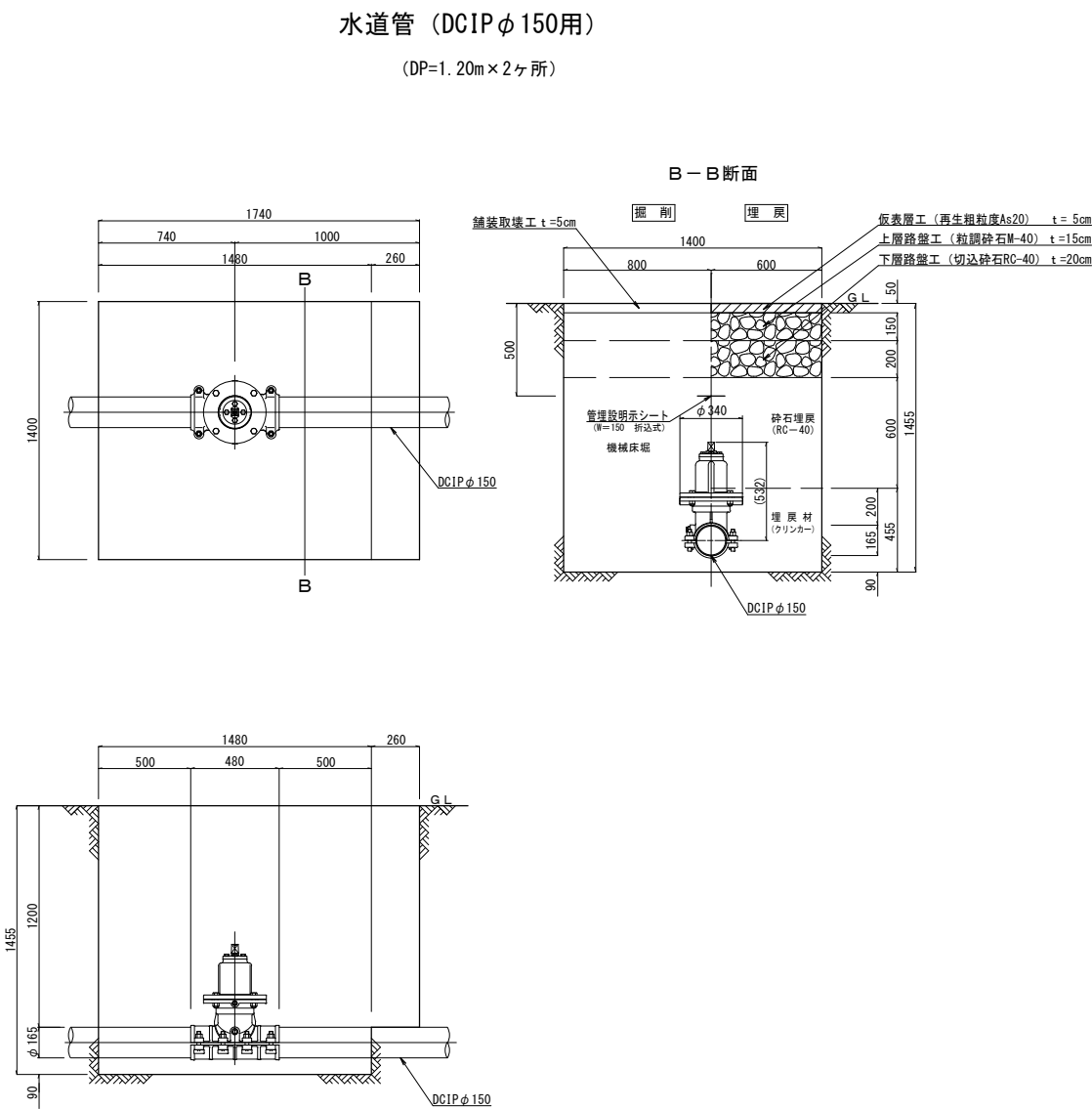


平成 8 年度			
南相馬市原町区馬場字川原田地区			
経年管更新事業配水管布設替（馬場字川原田地区）工事			
配 管 図 ・ 標 準 土 工 図			
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 5
測 量		主 任 技 術 者	
設 計	株式会社 日建	管 理 技 術 者	
福 島 県 南 相 馬 市			

不斷水バルブ土工図
 S=1:20

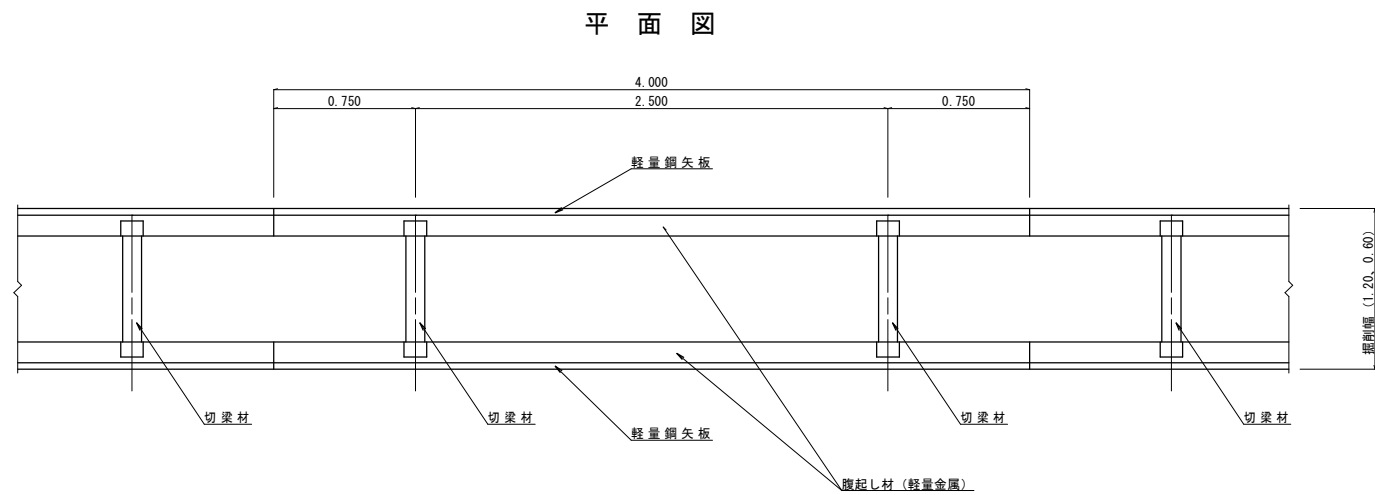


不斷水簡易仕切弁土工図
 S=1:20

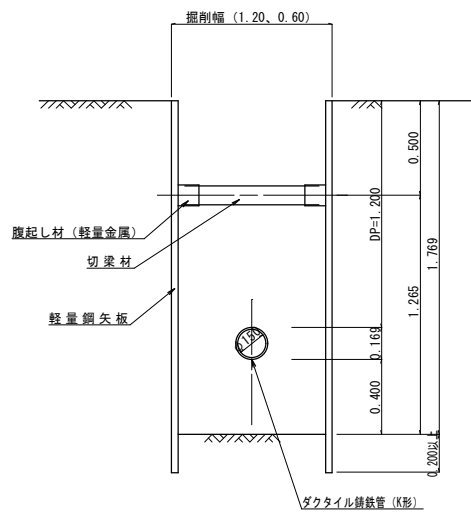


平成8年度			
南相馬市原町区馬場字川原田地内			
経年管更新事業配水管布設替（馬場字川原田地区）工事			
不斷水土工図			
縮尺	図示	図面番号	3 / 5
測量		主任技術者	
設計	株式会社 日建	管理技術者	
福島県南相馬市			

仮設土留工標準図 S=1:20



支保1段 断面図
K形ダクタイル鋳鉄管φ150 (DP=1.20m)



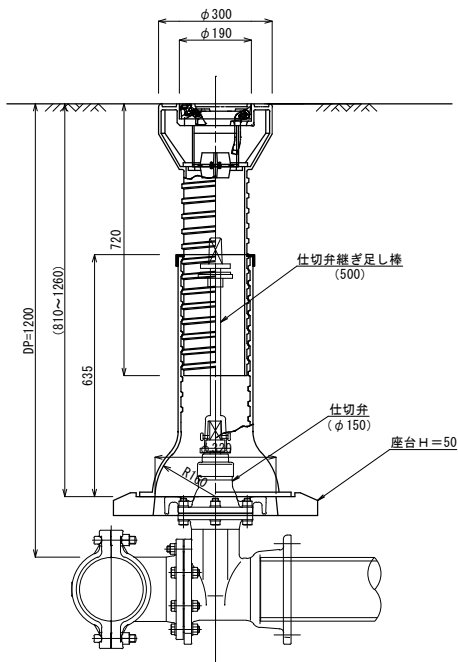
軽量鋼矢板建込土留工		
掘削深	矢板長	支保工段数
1.50m~1.80m (1.585m・1.769m)	2.00m	1段

仕切弁設置図 S=1:10

平面図



断面図

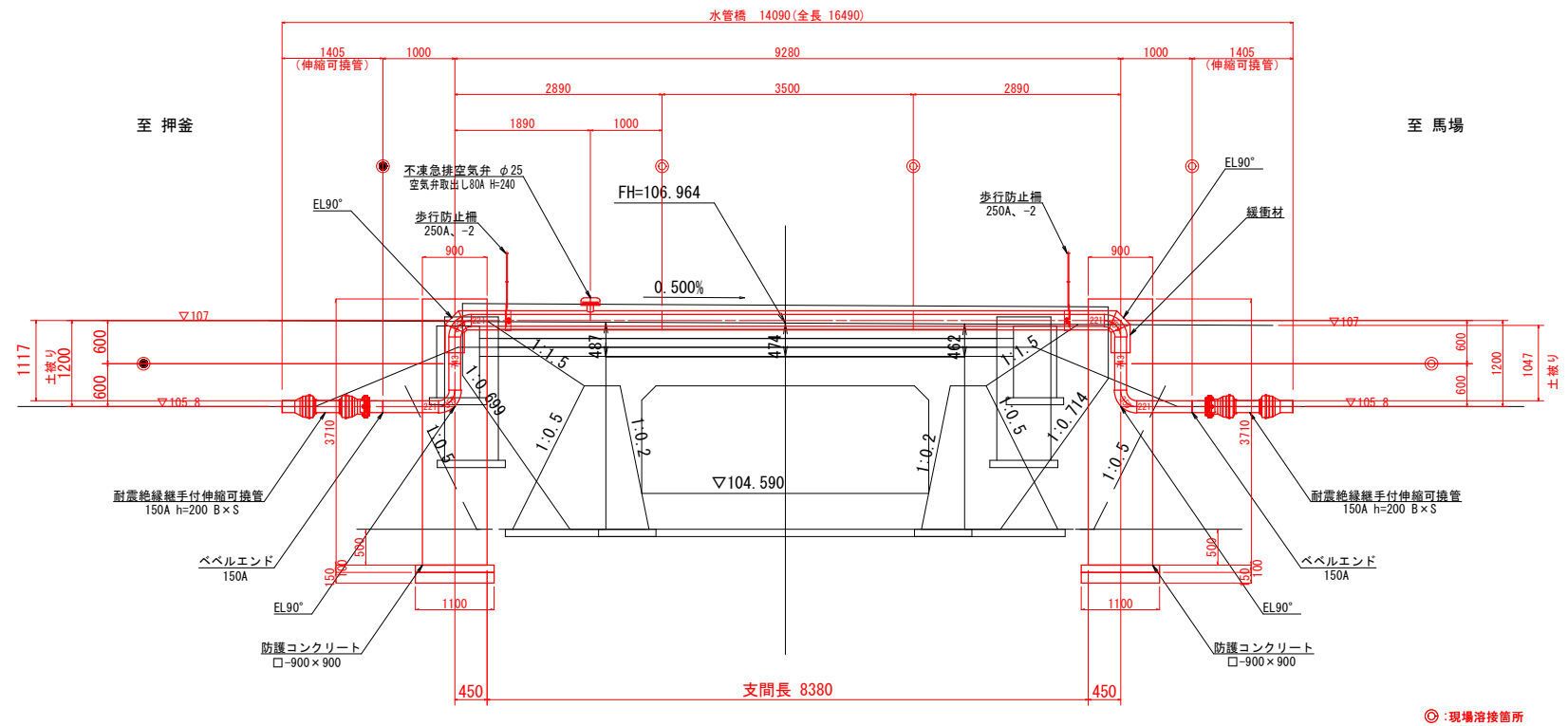


仕切弁組合せ表(φ150)			
本管径	埋設深	弁規格	仕切弁継ぎ足し棒
		810~1260	500
φ150	DP=1.20	5基	5本
計		5基	5本

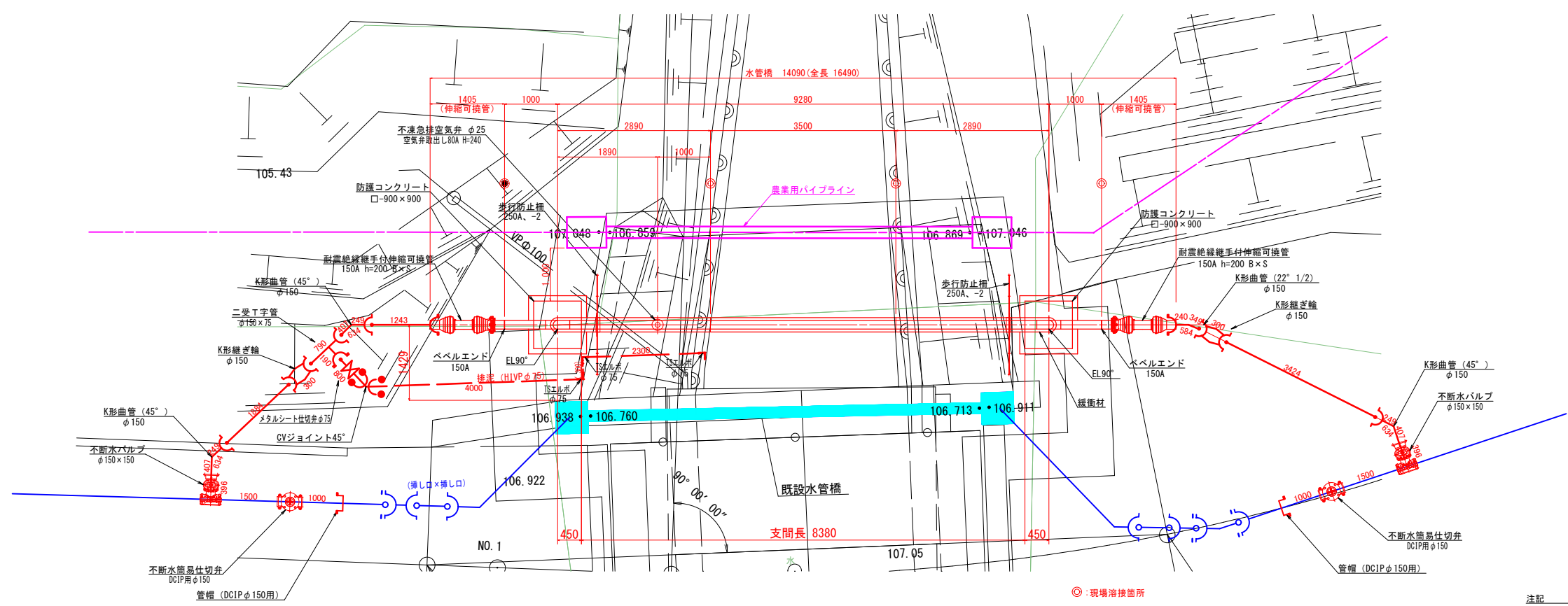
平成8年度			
南相馬市原町区馬場字川原田地区内			
経年管更新事業配水管布設替(馬場字川原田地区)工事			
仮設土留工標準図・仕切弁設置図			
縮尺	図示	図面番号	4 / 5
測量		主任技術者	
設計	株式会社 日建	管理技術者	
福島県南相馬市			

水管橋一般図
(押釜馬場線3号橋)

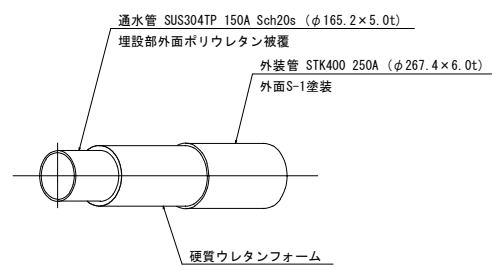
側面図 S=1:50



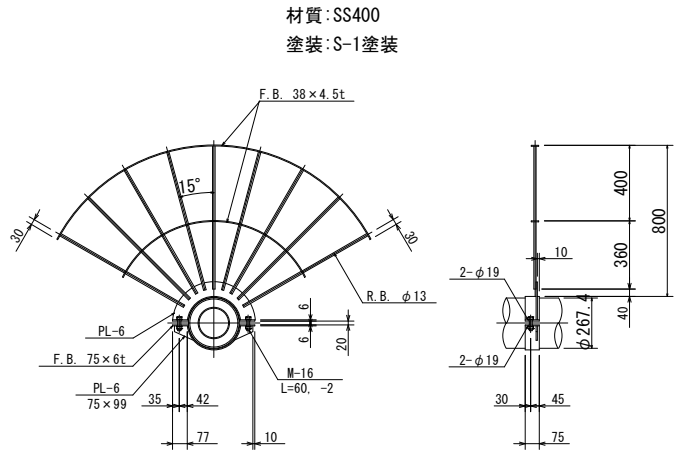
平面図 S=1:50



管梁詳細図



歩行防止柵詳細図 S=1:20



注記
1. 製作は現地実測確認のうえ行うこととする。
2. 埋設部の現場溶接箇所は、溶接後にジョイントコートを施すこと。

平成8年度			
南相馬市原町区馬場字川原地内			
経年管更新事業配水管布設替(馬場字川原地地区)工事			
水管橋一般図			
縮尺	図示	図面番号	5 / 5
測量		主 任 技 術 者	
設計	株式会社 日建	管 理 技 術 者	
福島県 南相馬市			

特記仕様書

工事番号： 2026000740
路線河川名： 市道押釜馬場線
工事名： 経年管更新事業配水管布設替（馬場字川原田地区）工事
工事施工箇所： 南相馬市原町区馬場字川原田地内

- 1 本工事の施工にあたっては、「共通仕様書 土木工事編」に基づき実施しなければならない。
- 2 本工事の施工にあたり、該当する項目は、□としている箇所である。
ただし、以下については、全ての工事に該当する項目である。
 - ・第20章 情報共有システム・遠隔臨場
 - ・~~第21章 労働者確保に関する積算方法の試行工事~~
 - ・~~第22章 快適トイレの設置（災害復旧工事は除く）~~
 - ・第23章 週休2日確保モデル工事等
 - ・~~第24章 建設キャリアアップシステム活用工事~~
 - ・~~第25章 ふくしまME資格取得者の現場活用~~
 - ・~~第26章 法定外の労災保険の付保~~
 - ・第27章 異常気象時における現場状況の報告
 - ・第28章 再生資源利用計画書
 - ・第29章 再生資源利用促進計画書
 - ・第30章 その他
- 3 第2章～第3章、第9章～第25章、第29章が適用される場合は、具体的内容を、福島県技術管理課ホームページに掲載しているので、必ず確認すること。
※ 福島県ホームページ＞組織でさがす＞技術管理課＞特記仕様書
- 4 本特記仕様書は、共通仕様書に優先する。
- 5 設計図書として扱う図面は以下（別紙）のとおりとする。

図 面 名	図面番号	葉数	適 用
平面図		1	
配管図・標準土工図		1	
不断水バルブ土工図		1	
仮設土留工標準図・仕切弁設置図		1	
水管橋一般図		1	
計	全	5 葉	

6 以下（別紙）の図面は参考図とする。

図 面 名	図面番号	葉数	適 用
計	全 葉		

7 本工事の施工にあたって、資機材及び労働者の調達に時間を要することが判明し、受注者から協議があった場合は、工事の一時中止及び工期の変更について検討し、決定するものとする。

8 設計図書に基づき監督員が受注者に指示した書面及び受注者が提出し監督員が承諾した書面は、設計図書とする。

9 設計変更に係る業務の円滑化を図るためのツールとして「土木工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）※」（福島県土木部）を活用すること。

※技術管理課ホームページ参照

南相馬市水道課

☑第1章 一般共通事項

- 1 下記の規制区域に該当するため、監督員と協議のうえ、関係官公庁に対して緊密な連絡をとり、協調を保つものとする。許可関係等がある場合には、監督員と協議のうえ、着手するものとする。

- | | | | |
|--------------|----|---|----|
| 1) 国有・民有保安林 | □有 | ・ | ☑無 |
| 2) 鳥獣保護区域 | □有 | ・ | ☑無 |
| 3) 国立・県立公園区域 | □有 | ・ | ☑無 |
| 4) 鉄道近接区域 | □有 | ・ | ☑無 |
| 5) その他 () | □有 | ・ | ☑無 |

☑2 施工区域内の地下埋設設備の確認について

受注者は、当該工事を実施するにあたり、「建設工事公衆災害防止対策要綱 第5章 埋設物（共通仕様書 土木工事編Ⅲ）」を遵守し、埋設物管理者に対し地下埋設物有無の確認の後に着手すること。

- 3 福島県の絶滅のおそれのある野生生物の生息区域との関係 □有 ・ □無
有の場合は、監督員と施工方法、施工時期、保護対策等について綿密な打合せを行うこと。

~~☑4 河道掘削に伴う工事測量~~

~~河道掘削工事にあたっての工事着手時の測量については、伐採、伐開除根、表土剥ぎ等を行った上で実施すること。~~

~~☑第2章 フレックス工事~~

~~（詳細は技術管理課ホームページを参照のこと）~~

~~本工事はフレックス工事であり、受注者は発注者が示した工期までの間で、工事の始期及び終期を任意に設定できる工事である。~~

~~☑第3章 準備期間確保工事~~

~~（詳細は技術管理課ホームページを参照のこと）~~

~~本工事は準備期間確保工事であり、受注者は契約締結日から準備期間（〇〇日間）内に着工日を任意に設定できる工事である。~~

☑第4章 総 則

☑1 施工計画書

工程管理はバーチャートにより行うものとする。

なお、施工計画書作成にあたっては、「施工計画書作成の手引き（土木工事編）」（技術管理課ホームページ参照）を参考にすることができる。

☑2 工事用地等の使用

- 1) _____作業に係るヤードとして、別添「_____図」による土地を使用すること。（土地の使用は可能である。）

- 2) 使用にあたっての条件、制限等

施工機械・資材置場等は請負者にて、施工場所近傍に確保のこと。

□3 関連工事

- 1) 工 事 名 : 道路メンテナンス事業(橋梁維持)橋梁修繕(押釜・馬場線3号橋)工事
- 2) 路河川名 : 市道押釜馬場線
- 3) 施工箇所 : 南相馬市原町区馬場字川原田地内
- 4) 注意・指示事項 : 市水道課及び土木課との工程調整が必要となります。

□4 支給材料及び貸与品

支給材料及び貸与品、またその引き渡し場所等については、下記のとおりとする。

支給品目 : _____ 数量 : _____
 引渡時期 : _____
 引渡場所 : _____

□5 工事現場発生品

- 1) 工事現場発生品及びその引き渡し場所は、下記のとおりとする。

発生品目 : _____
 引渡時期 : _____
 引渡場所 : _____

- 2) 従来施設の撤去により発生した_____は、_____材料として再使用するものとし、使用にあたってはあらかじめ監督員の数量検査を受けなければならない。

□6 建設副産物処理

- 1) 下記の建設副産物は、現地において下記のとおりリサイクル処理するものとする。

建設副産物名	処理方法等	備考

- ☑2) 下記の建設副産物は、下記に示す方法で処理するものとする。ただし、施設は指定するものではない。

建設副産物名	処理方法	積算上の施設※
As ガラ	(再資源化・中間・最終)施設へ搬入	斎藤運輸工業(株)
As 切断排水	(再資源化・中間・最終)施設へ搬入	(株)モンマ
	(再資源化・中間・最終)施設へ搬入	

※ 積算上の施設は積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではなく、ここに明示した施設と異なる施設に処理する場合は、監督員の承諾を得ることとするが、設計変更の対象とはしない。なお、受入拒否等により処理施設の条件が異なる場合は、その記録をもって設計協議の対象とする。

- 3) 金属くずについては、簡単に分別可能であり、明らかにスクラップとして売却処分できるものについては、協議の対象とする。

□7 中間検査に関すること

- 1) 以下の対象工事（工種）の「有」について中間検査を実施する。毎月の履行報告時

に実施予定時期を報告すること。なお、①～④に複数該当する場合には、中間検査の回数について監督員と協議すること。

対象要件	対象工事 (工種)	実施時期	備考 (具体的な工種等)
①竣工検査時に確認 困難な工事(工種) (足場、仮設を撤 去すると現場に行 けなくなる等。)	☐ 有 ・ ☐ 無	・対象工種が完成してから足場、 仮設等を撤去するまでの間。	
②不可視部の工事 (工種)で2)に 示すもの	☐ 有 ・ ☐ 無	・不可視部の施工が完了、 又は概ね完了した時。 ・鉄筋構造物については、 配筋が完了、又は概ね完了 した時。	2) に示す工事 (工種)
③工期が1年以上 となる工事。	☐ 有 ・ ☐ 無	・協議による。	
④その他、発注者 が必要とする工 事(工種)	☐ 有 ・ ☐ 無	・製作、仮組みが完了した時。 ・その他、発注者の指示による。	3) に示す工事 (工種)

注1) 監督員は、有無に○印を付けるとともに、備考に工種を記入すること。
また必要に応じ実施時期を修正すること。

2) ②不可視部の工事（工種）とは次のものとする。

- ☐杭基礎、☐場所打杭、☐深礎杭、☐ケーソン基礎、☐地盤改良
☐捨石均し、☐被覆・根固め均し、☐井筒潜函基礎、☐山腹基礎床掘
☐上層路盤（1,000m²以上の工事）
☐現場打ちのボックスカルバート、擁壁（鉄筋 Co）
☐橋台・橋脚、☐現場制作 P C 橋、☐床版
☐水門・樋門
☐ブロック製作、ケーソン製作
☐覆工 Co の前段工事
☐その他【

3) ④その他、発注者が必要とする工種（工事）とは次のものとする。

- ☐桁の仮組立
- ☐水門扉、☐可動堰、☐スノーシェッド、☐ポンプ施設、☐除塵機、☐栈橋
- ☐堰堤（Co、盛土）
- ☐堰（工場制作）、ラバーダム
- ☐地盤変動等の影響が予想される掘削
- ☐仮橋、路面覆工（一般交通に供し、指定仮設として設置されるもの）
- ☐仮堤防（本堤防と同等の機能を求める仮堤防）
- ☐その他【

☒ 8 監督員による確認及び立会等

監督員による検査及び立会は、共通仕様書によるもののほか下記のとおりとする。

検査及び確認事項	工種・箇所等	段階(確認時期)	備 考
施工延長、縦横断測量等	起工測量	起工測量後	
変更資材も含む	資材検査	資材搬入後	
穿孔コア確認、水圧テスト実施	不断水工	不断水工実施時	
継手チェックシート提出	管布設・継手工	管布設時	
水圧試験実施前後、通水及びブロー	水圧試験	布設工事完了後	
手直しが生じた場合は再検査	完了検査	完成日前に1回	
必要に応じ、別途指示する	その他	監督員の指示	

☒ 9 施工管理

管理基準等については共通仕様書によるが、下記の工種については下記の規格値等で管理するものとする。

☒ 1) 出来形管理

工 種	測定項目及び規格値	測定基準	測定箇所
起工測量			
資材検査			
不断水工			

☒ 2) 品質管理

工種及び種別	試験項目及び試験方法	規格値	試験基準等
水圧試験			
継手チェックシート			

☐ 3) 写真管理

工 種	撮影項目	撮影頻度	提出頻度

☐ 10 コンクリートの圧縮強度試験

「共通仕様書 土木工事編Ⅱ」の「品質管理基準及び規格値」における「1セメント・コンクリート」によるもののほか、下記の構造物に使用するセメント・コンクリートの圧縮強度試験のうち、材齢28日圧縮強度試験は公的試験機関で実施すること。

構造物名	コンクリートの品名等	摘 要

☐ 11 用地取得及び支障物件

☐ 1) 工事区域内の用地確保 (☐ 済 ・ ☐ 一部未了)

工事区域内に用地の確保が未了である場合は、監督員と緊密な連絡を保ち、解決に協力すること。

【用地取得見込時期】 年 月 (☐ 上旬 ☐ 中旬 ☐ 下旬)

□ 2) 工事支障物件： □有 ・ □無

【支障物件移転予定時期】 _____ 年 _____ 月 (□上旬 □中旬 □下旬)

□ 12 工事の履行報告（工程会議）

工事着工後、履行状況については、_____に監督員に提出すること。
 なお、休日の場合は、日程について監督員と協議すること。
 また、協議様式は、監督員の指示によること。

☑ 13 交通誘導員の配置

交通誘導員は 施工箇所 に 2 人 配置する。
 交替要員は _____ 人 配置する。
 なお、詳細については施工計画書において監督員と協議すること。

☑ 14 作業工程

- 1) 全ての 作業は、昼間 とし、時間帯は 8:30 ～ 17:00 時までとする。
- 2) 作業工程における注意事項：
断水については、住民の方及び近接する工事との調整が必要になります。
- 3) 現道の使用規制について
 現道は、片側交互通行 により本工事を施工するものとする。
- 4) 工事を施工しない日 □ 有 ・ □ 無 _____ 年 _____ 月 _____ 日
 工事を施工しない時間帯 □ 有 ・ □ 無 _____ : _____ ~ _____ : _____
 「工事を施工しない時間帯」は、
 □ 工期全体 □ 上記「工事を施工しない日」 □ _____ に適用する。

☑ 15 仮設

☑ 1) 指定仮設の有無 ☑ 有 ・ □ 無

☑ 2) 指定仮設

仮設物名	規格・寸法・構造	資料の有無	備考

□ 3) 下記の仮設物は工事完了後も工事現場に存置すること。

仮設物名： _____ 数量等： _____
 存置期間： _____

□ 16 工事における現場環境改善

当該工事で実施する現場環境改善は、下表の計上費目別に指定する項目数を、実施する

内容から選択して実施すること。

計上 費目	実施する 項目数	実 施 す る 内 容 (率 計 上 分)
現場環境改善 (仮設備関係)	()	① 用水・電力等の供給設備 ② 緑化・花壇 ③ ライトアップ施設 ④ 見学路及び椅子の設置 ⑤ 昇降設備の充実 ⑥ 環境負荷の低減
現場環境改善 (営繕関係)	()	① 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) ② 労働者宿舍の快適化 ③ デザインボックス(交通誘導警備員待機室) ④ 現場休憩所の快適化 ⑤ 健康関連設備及び厚生施設の充実等
現場環境改善 (安全関係)	()	① 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) ② 盗難防止対策(警報器等) ③ 避暑(熱中症予防)・防寒対策
地域連携	()	① 完成予想図 ② 工法説明図 ③ 工事工程表 ④ デザイン工事看板(各工事PR看板含む) ⑤ 見学会等の開催(イベント等の実施含む) ⑥ 見学所(インフォメーションセンター)の設置及び管理運営 ⑦ パンフレット・工法説明ビデオ ⑧ 地域対策費(地域行事等の経費を含む) ⑨ 社会貢献

□ 17 工事名標示板

本工事には、県産木材を利用した工事名標示板を_____基設置すること。

□ 18 六価クロム溶出試験(及びタンクリーチング試験)

本工事は、「六価クロム溶出試験(及びタンクリーチング試験)」の対象工事であり、下記に示す工事について六価クロム溶出試験(及びタンクリーチング試験)を実施し、試験結果(計量証明書)を提出するものとする。

なお、試験方法は、セメント及びセメント固化剤を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領によるものとする。

また、土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合は、監督員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

(六価クロム溶出試験対象工種及び検体数)

工 種	工 法	配合設計段階	施工後段階
		検体	検体
		検体	検体
		検体	検体

(タンクリーチング試験対象工種及び検体数)

工 種	工 法	検体数	備 考
		検体	
		検体	
		検体	

□第5章 材 料

□1 設計図書に指示されていない工事材料は下記の仕様による。

□1) 一般資材

種別	材料名	記号等	品種・規格等	備考

※ 設計図書に規格等の明示のないものを記載する。

□2) 再生材

材料名	規格等	使用箇所	備考

※ 再生骨材・再生アスファルト合材については、運搬距離40kmの範囲までの再資源化施設についてストック量を調査し使用することとする。これにおいても再生材が入手不可能であった場合は、発注者と受注者が協議を行った上で新材を使用することができるものとし、設計変更の対象とする。

□2 下記の工事材料については、受注者の責任においてその外観及び品質証明書等を照合して確認した資料、見本等を事前に監督員に提出し確認を受けること。

また、工事材料のうち試験を行わなければならない材料は下記のとおりとする。

種別	材料名	記号等	品種・規格等	備考
				確認資料・見本 ・試験()
				確認資料・見本 ・試験()
				確認資料・見本 ・試験()

※ 備考欄で種別を選択する。(試験のカッコ書きは試験方法を記入する)

□3 下記資材については、以下の調達地域等から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当該調達地域等以外から調達せざるを得ない場合又は調達地域内からの購入である場合においても設計価格と乖離がある場合には、事前に監督員と協議するものとする。また、購入費用及び輸送費等に要した費用について、証明書類(実際の取引伝票等)を監督員に提出するものとし、その費用について設計変更の対象とする。

資 材 名	規 格	調達地域等

☑第6章 一 般 施 工

☑1 建設発生土の処理

□ 1) 他工事への流用: ☐ 有 ・ ☐ 無

工事名: _____ 路河川名: _____

施工場所: _____ 市・郡 _____ 町・村 _____ 大字 _____ 字 _____ 地内 _____

運搬距離 _____ km

☒ 2) 搬出先

受入場所: _____ 市・郡 _____ 町・村 _____ 大字 _____ 字 _____ 地内 _____

運搬距離 _____ 2 _____ km

なお、受注後、搬出場所や受け入れ費用に変更の必要が生じた場合は、協議により変更すること。協議時には、変更する搬出先が都市計画法（開発許可）、森林法（林地開発）、砂防法、急傾斜地崩壊防止法および盛土規制法（改正宅地造成等規制法）などの諸法令違反ではないことのわかる資料を監督員に提出すること。

搬出後は、最終形状、数量計算書、写真及び運搬距離等の資料を監督員に提出すること。

□ 2 他工事からの流用土

□ 1) 他工事からの流用: ☐ 有 ・ ☐ 無

① 工事名: _____ 路河川名: _____

② 指定・施工場所: _____ 市・郡 _____ 町・村 _____ 大字 _____ 字 _____ 地内 _____

③ 運搬の有無: ☐ 有 ・ ☐ 無 (_____ km)

④ 品 質: _____

品質の確認試験 (_____) については、 _____ で実施する。

□ 3 購入土等

□ 1) 購入土等の有無: ☐ 有 ・ ☐ 無

□ 2) 購入土等の種類: ☐購入土 ・ ☐岩ズリ ・ ☐その他 (_____)

□ 3) 購入土等がある場合は、受注者は施工計画書に購入先を記載して、監督員に提出する。

□ 4) 購入土等が1工事あたり1, 000m³以上の場合は、受注者は、工事で使用する購入土等を現場に搬入する前に、購入先の採取計画に関する認可書の写しを監督員に提出し、監督員の確認を受けなければならない。

□ 4 建設汚泥（泥土）の処理

□ 1) 汚泥（泥土）は、 _____ による改良を行い、 _____ として再利用する。

□ 2) 改良目標は、国土交通省令の土質区分基準における _____ とする。

□ 3) 改良材料等の種類や添加量については設計図書によるものとするが、受注者は各種試験を行い改良目標が得られるような添加量を検討し、監督員と協議するものとする。

なお、監督員の承諾が得られ、添加量が当初設計と異なる場合は変更設計の対象とする。

□ 4) 改良土の品質管理及び改良土を使用した施工の施工管理基準は設計図書によるものとするが、設計図書に示されていない場合は監督員と協議するものとする。

□ 5 レディーミクストコンクリートの養生

□ 1) レディーミクストコンクリートの養生は、使用するコンクリートの特性をよく理解し、コンクリート種別、打設時期の日平均気温、打設環境に応じて適切な養生を行

うものとし、共通仕様書に示す養生期間を遵守すること。また、コンクリートの運搬、打設計画、養生等の方法について、施工計画書に具体的に明記すること。

本工事におけるレディーミクストコンクリートの養生について検討する項目は以下の☑印のとおり。

コンクリート種別	☐ 普通ポルトランドセメント
	☐ 混合セメントB種 ☐ 高炉セメントB種 ¹⁾ ☐ フライアッシュセメントB種 ☐ シリカセメントB種
	☐ 早強ポルトランドセメント
気象条件	☐ 暑中コンクリート(日平均気温が25℃を超える場合)
	☐ 寒中コンクリート(日平均気温が4℃以下になる場合) ☐ 連続して、あるいはしばしば 構造物の露出状態 ☐ 水で飽和される部分 ²⁾
	☐ 普通の露出状態

1) 「高炉セメントコンクリートの特性と施工に関する留意点」は技術管理課ホームページ参照

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025b/kouro-semento.html>

2) 水路、水槽、橋台、橋脚、擁壁、トンネル覆工等で水面に近く水で飽和される部分、及びこれらの構造物の他、桁、床版等で水面から離れてはいるが、融雪、流水、水しぶき等のため水で飽和される部分。

□6 塗装工

□1) 塗装回数は下塗____回、中塗____回、上塗____回とする。

□2) 塗料の種類は下記のとおりとする。

種別及び箇所	細 別	塗料の種類	目標塗膜厚(μm)
工場塗装	下塗り1層		
	下塗り2層		
	中塗り1層		
現場塗装	中塗り2層		
	上塗り1層		
	上塗り2層		

□3) 素地調整(ケレン)は____とする。

□4) 詳細の色彩等については監督員と協議のこと。

□7 現場打ちの鉄筋コンクリート構造物施工

□1) 受注者は、現場打ちの鉄筋コンクリート構造物の施工にあたっては、「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン」により施工する。

□2) 受注者は、現場打ちの鉄筋コンクリート構造物の施工にあたり、設計図書等に「機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン」及び「現場打ちコンクリート構造物に適用する機械式鉄筋継手工法ガイドライン」を採用していない場合は、採用についての協議を行うことが出来る。

□第7章 その他施工

□1 工法の指定

工法は下記によるものとする。なお、現場条件等により、これにより難しい場合は監督員と協議のこと。

工 種	指 定 工 法	備考

□2 建築物又は工作物の解体

石綿障害予防法規則に基づき、解体等の作業における保護具の装着、湿潤を保つ措置を行う費用、石綿の使用の有無を分析によって調査した場合に要する費用については、当初設計では計上していないため、それらに要した費用については、発注者と受注者が協議の上、設計変更で計上するものとする。

また、石綿の使用の有無を分析によって調査する場合の工期の変更についても、福島県工事請負契約約款の関係条項に基づき適切に変更することとする。

□3 重建設機械分解・組立及び輸送に要する費用

下記の機械については、分解・組立及び輸送に要する費用を計上しているが、受注者が施工計画で分解・組立を必要としない機種・規格を選定し、使用した場合においても、設計変更の対象としない。

工 種	機 種	規 格

□4 ポリマー改質Ⅱ型アスファルト混合物の使用 ※ 車道および側帯の舗装新設、改築および大規模な修繕（延長 200m 以上の全層打ち換え）を行う工事でポリマー改質Ⅱ型アスファルト混合物を使用する場合に記載

本工事は表層材料に耐流動対策混合物としてポリマー改質Ⅱ型アスファルト混合物を使用する工事であり、塑性変形輪数の基準値の適用区分となる道路区分等は以下のとおりである。（該当するものに「○」）

道路区分	舗装計画 (単位 1 日につき台)	交通量塑性変形輪数 (単位 1 ミリメートルにつき回)	該当欄
第 1 種、第 2 種	3,000 以上	3,000	
第 3 種第 1 級及び第 2 級	3,000 未満	1,500	
第 4 種第 1 級			
その他		500	
交差点等耐流動対策混合物として使用		1,500	

□5 植栽工 ※ 植栽に係る直接工事費が 50 万円以上となる工事の場合に記載

本工事で植栽する樹木等については、植樹保険に加入しなければならない。
また、工事完成届提出時まで、植樹保険付保証明書を提出しなければならない。

□6 鋼橋桁の輸送に要する費用

鋼橋桁については、(例えば東京)からの輸送に要する費用を計上しているが、受注者が施工計画書で示した鋼橋桁の製作場所が(例えば東京)より近距離である場合、設計変更の対象とする。

□第8章 ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針に基づく工事箇所

「共通仕様書 土木工事編Ⅰ」第1編第1章総則「1-1-3「ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針」の取扱い」の規定について、本工事では、特に以下の基本方針のレ印に該当するものについてユニバーサルデザインに配慮した施工をおこなうものとする。

□1 工事を行う基本方針（指針P13）

基本方針1 すべての人が 快適 に利用できる施設

- ① 特定の人々が特別扱いされたり、いやな思いをすることのない施設
- ② 右利き、左利きに対応した施設
- ③ 利用方法や利用状況の説明が効果的に行われる施設
- ④ 視覚、聴覚、触覚など多様な手段で、必要な情報が十分に提供される施設
- ⑤ 補助器具や補助手段を効果的に活用できる施設
- ⑥ 繰り返しの動作や、長時間にわたる肉体的負担が伴わない施設
- ⑦ 利用場所に接近しやすく、利用する広さが適切な施設
- ⑧ 重要なものがよく見えるよう、視線が確保されている施設
- ⑨ 使用しようとする全てのものに容易に手が届く施設
- ⑩ 少ない労力で効率的に、楽に使える施設
- ⑪ 利用者に不自然な姿勢を強いない施設
- ⑫ プライバシーに配慮された施設
- ⑬ 天候や季節に左右されない施設
- ⑭ 疲れたときに休むことができる施設

基本方針2 すべての人が 簡単 に利用できる施設

- ① 使い方を直感的に理解できる施設
- ② 利用者の理解力や言語能力の違いが問題にならない施設
- ③ 必要な情報が容易にわかる施設

基本方針3 すべての人が 安全 に利用できる施設

- ① 安全に対する配慮が等しく確保される施設
- ② 危険や間違いやすい状況が発生しない施設
- ③ 使用方法を間違えても重大な結果につながらない施設
- ④ 注意が必要な操作において、不注意な操作を誘発しない施設
- ⑤ 危険なときや使用方法を間違えたときは、注意や警告を発する施設
- ⑥ 危険な部分が防護されている施設

- ☐⑦ 四季を通じて安全な施設
- ☐⑧ 災害時や不測の事態が生じて、安全に避難できる施設

基本方針4 さりげなく 美しい 施設

- ☐① 色や形状などの印象が、利用者にとって抵抗感がなく、受け入れられやすい施設
- ☐② 創意工夫された内容が、目立ちすぎず、さりげなくデザインされている施設
- ☐③ 地域の特性を生かし、周辺の景観と調和した施設
- ☐④ 自然や環境に配慮し、動植物にやさしい施設

基本方針5 どのような状況にも 柔軟 に対応できる施設

- ☐① できる限り同じ手段で利用できる施設
- ☐② 利用者に応じた使い方が選べる施設
- ☐③ 利用者のペースに合わせることができる施設
- ☐④ 情報がその重要性に応じて提供される施設
- ☐⑤ 補助器具の使用や人的介助に十分な空間を提供できる施設

☐2 特に重点をおいて工事する項目・箇所

☐第9章 記録保存の資料作成

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

- ☐1 本工事は道路構造物の記録保存の対象工事である。
以下の資料を作成要領に基づき作成すること。
 - ・道路構造物の記録保存資料
- ☐2 本工事は道路舗装構成物の記録保存の対象工事である。
以下の資料、作成要領に基づき作成すること。
 - ・道路舗装構成等の記録保存資料

☐第10章 1日未満で完了する作業の積算

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

本工事は、施工実施にあたり、作業量が1日未満で完了するものと見込まれ、施工パッケージ型積算基準と乖離が認められた場合に、「1日未満で完了する作業の積算」に基づき積算が出来る工事である。

☐第11章 施工箇所が点在する工事の積算

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

本工事は「施工箇所が点在する工事の積算方法」の対象工事である。

対象地区：〇〇工区（施工箇所〇〇、〇〇）、△△工区（施工箇所〇〇）、
□□工区（施工箇所□□）（ホームページではこれらを対象地区という）
（なお、積算上の親工区は、△△工区（施工箇所〇〇）とする。）

☐第12章 落橋防止装置の溶接施工等について

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

本工事において落橋防止装置の溶接施工等を行う際には、本章に基づき実施すること。

□第13章 ICT活用工事

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

- 1 本工事の発注方式は (☐受注者希望型 ・ ☐発注者指定型) である。

□2 ICT活用工事(土工)

本工事は、「福島県土木部 ICT活用工事(土工等)実施要領」に基づき、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する「ICT活用工事(土工)」の対象工事である。

□3 ICT活用工事(舗装工)

本工事は、「福島県土木部 ICT活用工事(舗装工)実施要領」に基づき、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する「ICT活用工事(舗装工)」の対象工事である。

□4 ICT活用工事(浚渫工(港湾))

本工事は、「福島県土木部 ICT活用工事(浚渫工(港湾))実施要領」に基づき、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する「ICT活用工事(浚渫工(港湾))」の対象工事である。

□5 ICT活用工事(土工1,000m³未満)

本工事は、「福島県土木部 ICT活用工事(土工1,000m³未満)実施要領」に基づき、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する「ICT活用工事(土工1,000m³未満)」の対象工事である。

□6 ICT活用工事(小規模土工)

本工事は、「福島県土木部 ICT活用工事(小規模土工)実施要領」に基づき、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する「ICT活用工事(小規模土工)」の対象工事である。

☑第14章 舗装の切断作業時に発生する排水の具体的処理について

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

~~☑第15章 「総合評価方式(標準型・簡易型)における技術提案書に記載された事項の実施状況」の確認について~~

~~(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)~~

☑第16章 熱中症対策に関する現場管理費補正及び工期の設定

(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)

1 本工事は、「土木工事における熱中症対策に関する試行要領」の対象工事である。

2 猛暑による作業不能日数

本工事は、猛暑による作業不能日数を次のとおり見込んでいる。

i) 作業不能日数：0日間

ii) 上記 i) は、環境省が公表する東北地方相馬（福島）地点における WBGT 値（気温、湿度、日射・輻射を考慮した暑さ指数）過去5年分（令和2年～6年）について、本工事の工期に対応する期間（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日及び夏季休暇（3日）を除く。）において、8時から17時の間に WBGT 値が31以上となった時間を算定し、日数に換算したもの5年分を平均したもの。

iii) 気象状況により工期中に発生した猛暑による作業不能日数（当該現場における定時の現場作業時間において、環境省が公表する東北地方相馬（福島）地点における WBGT 値が31以上となり、かつ受注者が契約工事単位で全作業を中断し、又は現場を閉所した時間を算定し、日数に換算したもの（小数点以下第一位を四捨五入する。））が i) の日数から著しく乖離した場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

3 基準とする気象庁の気象観測所は施工現場によって次のとおりとする。

i) 施工現場が小高区の場合 「浪江」

ii) 施工現場が鹿島区及び原町区の場合 「相馬」

~~☑第17章 三者協議~~

~~本工事は、三者協議会実施要領の対象工事である。~~

~~☑第18章 国土強靱化事業の取組に関する広報~~

~~—— 本工事は国土強靱化事業の関連工事であるため、工事名標示板に「国土強靱化対策工事」の記載を行うこと。——~~

~~—— 記載方法については、下記を参照し監督員と協議すること。——~~

工事名標示板のイメージ（例）

ご協力をお願いします
洪水被害を防ぐため、 土砂を撤去しています
いのちとくらしをまもる防災減災 国土強靱化対策工事
令和〇年〇月〇日まで 時間帯〇:〇〇～〇:〇〇
河川(交付)工事(開削)
発注者 福島県〇〇建設事務所 〇〇課
施工者 〇〇〇〇建設株式会社
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

※主な工種等の記載に加え、枠内の記載を行う。

第19章 ~~電子納品~~

~~（詳細は技術管理課ホームページを参照のこと）~~

~~電子納品保管管理システムへのオンライン納品は、電子媒体納品書を監督員に提出し、成果品が登録済みであることの確認を受けることで完了とする。~~

第20章 情報共有システム、~~遠隔臨場~~

（本章はすべての工事に該当する）

~~（詳細は技術管理課ホームページを参照のこと）~~

情報共有システム及び遠隔臨場について、実施できない特段の理由等がある場合は、受発注者間の協議を行ったうえで実施の可否を決定する。

情報共有システム実施の可否にかかわらず、本工事の提出書類については、可能な範囲で電子媒体により納品を行うものとする。

情報共有システム実施は、「南相馬市建設工事情報共有システム実施要領」によること。

第2-1章 労働者確保に関する積算方法の試行工事

~~（本章はすべての工事に該当する）~~

~~（詳細は技術管理課ホームページを参照のこと）~~

☐ 1 労働者確保に関する積算方法の試行工事

~~本工事は、「労働者確保に関する積算方法の試行工事」である。~~

~~共通仮設費（率分）に占める実績変更対象間接費（労働者送迎費、宿泊費、借上費）の割合：_____％~~

~~現場管理費（率分）に占める実績変更対象間接費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用）の割合：_____％~~

☐ 2 労働者確保及び労働者宿舍設置に関する積算方法の試行工事

~~本工事は、「労働者確保及び労働者宿舍設置に関する積算方法の試行工事」である。~~

~~共通仮設費（率分）に占める実績変更対象間接費（労働者送迎費、宿泊費、借上費、労働者宿舍の維持・補修に要する費用）の割合：_____％~~

~~現場管理費（率分）に占める実績変更対象間接費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用、租税公課）の割合：_____％~~

第2-2章 快適トイレの設置

~~（本章はすべての工事に該当する）~~

~~（詳細は技術管理課ホームページ『快適トイレの設置について』『土木部発注工事における快適トイレの設置に関する運用』を参照のこと）~~

~~本工事は、快適トイレ設置の対象工事である。当初設計においては、~~

~~☐ 快適トイレ ☐ 快適トイレ男女一体型（ハウス型）~~

~~設置基数：__○__基 設置期間：__○__月__○__月として計上している。~~

~~現場に快適トイレを設置しない場合は、発注者と協議すること。~~

~~現場環境（工事期間、周辺環境、労働者配置状況等）を踏まえ、上記設置基数以上の快適トイレを設置する場合は、あらかじめ受発注者協議を行い、決定すること。~~

~~また、実際に現場へ快適トイレを設置した期間が確認できる資料を監督員に提示すること。~~

第2-3章 週休2日確保モデル工事等

~~（本章はすべての工事に該当する）~~

~~（詳細は技術管理課ホームページを参照のこと）~~

~~本工事は、「福島県土木部週休2日等工事試行要領」「南相馬市発注工事における「週休2日確保モデル工事」試行要領」に定める工事のうち、☒としている箇所の対象工事である。~~

~~☒ 「週休2日確保モデル工事（発注者指定型）」 ☐ 月単位 ☐ 完全週休2日~~

~~☐ 「週休2日確保交替制工事（発注者指定型）」 ☐ 月単位 ☐ 完全週休2日~~

~~なお、「週休2日確保モデル工事（発注者指定型）」及び「週休2日確保交替制工事（発注者指定型）」において、受注者が「完全週休2日」を希望する場合、受発注者協議の上で変更することができる。~~

~~また、本試行対象外工事であっても、受注者が週休2日等の実施を希望する場合は、受発注者協議の上で対象とすることができる。~~

第24章 ~~建設キャリアアップシステム活用工事~~

~~(本章はすべての工事に該当する)~~

- ~~1 本工事は、『福島県土木部発注工事等における建設キャリアアップシステム活用工事実施要領』の対象工事である。~~
- ~~2 受注者は実施要領に定める事項について遵守しなければならない。~~
- ~~(※なお、実施要領は技術管理課ホームページ参照)~~

第25章 ~~ふくしまME（メンテナンスエキスパート）資格取得者の現場活用~~

~~(本章はすべての工事に該当する)~~

~~(詳細は技術管理課ホームページを参照のこと)~~

第26章 法定外の労災保険の付保

(本章はすべての工事に該当する)

本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

受注者は、法定外の労災保険契約を締結したことを証明する書類（証券等の写し）を提出しなければならない。

第27章 異常気象時における現場状況の報告

異常気象時の工事現場における対応について下記のとおりとする。

1 異常気象時等の対象

(1) 大雨・洪水等の警報発令時

「工事現場の当該市町村」の気象警報を対象とする。

(2) 震度5弱以上の地震時

「工事現場の当該市町村」の震度5弱以上を対象とする。

ただし、気象条件及び現場条件等を勘案し、別途、監督員から指示がある場合は震度4の場合も対象とする。

2 パトロール等の実施及び報告の内容について

- ① 作業中であれば、作業を中止し、現場内及び周辺の状況把握に努める。
- ② 休工中であれば、必要に応じ2名以上を構成員とする警戒班(巡視員)を出動させて巡回点検(パトロール)を実施する。
- ③ 天気予報であらかじめ異常気象が予想される場合は、事前に防災監視体制を配備し待機する。
- ④ 危険箇所が発見された場合は、すみやかに危険箇所に立ち入らないよう防護措置を講じ、その旨を標示する。また、現場状況を把握し、2次災害防止に努める。
- ⑤ 警報が解除され、作業が再開する前には、工事現場の地盤のゆるみ、崩壊、陥没等の危険がないか入念に点検する。
- ⑥ 地震及び津波が発生した後に、作業を再開する前には、建設物、仮設物、資機材、建設機械、電気設備及び地盤、斜面状況等を十分点検する。
- ⑦ 異常の有無にかかわらず、点検結果を監督員（連絡が取れない場合は、係長又は課長）に適宜に報告する。また、報告方法は、まず電話連絡し、その後別紙様式にて、

FAX又はメールする。

3 報告期限について

(1) 大雨・洪水等の警報発令時

警報発令後1時間以内及び降雨等の状況等により適宜。

(2) 震度5弱以上の地震時

地震発生後1時間以内。

(被害等が甚大でパトロールの実施が困難である場合などはこの限りでない)

第28章 再生資源利用計画書

(本章はすべての工事に該当する)

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令等に基づき、再生資源利用計画書を作成し、施工計画書に含め監督員に写しを提出しなければならない。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

第29章 再生資源利用促進計画書

(本章はすべての工事に該当する)

1 受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令等に基づき、再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含め監督員に写しを提出しなければならない。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

2 受注者は、建設発生土の搬出先について、事前に当該工事の搬出先が盛土規制法など各種法令の許可状況等を満たしているか確認し、その結果を再生資源利用促進計画の添付資料(確認結果の現場掲示例※技術管理課ホームページ参照)として、工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

3 受注者は、建設発生土の搬出先に受領書(※技術管理課ホームページ参照)の交付を求め、その写しを5年間保存し、受領書の写しを完成図書に添付しなければならない。搬出先が県土木部の有償民間受入地の場合、受領書は「公共工事建設発生土の民間受入に関する試行要領」第9条の規定によるものとする。(※試行要領は技術管理課ホームページ参照)

4 受注者は、土壌汚染対策法の手続き状況を確認し、確認結果(確認結果の現場掲示例※技術管理課ホームページ参照)を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

☑第29章 その他

(1) 工事書類の簡素化について

1. 本工事は福島県土木部における「工事に関する提出書類の簡素化ガイドライン」に基づき実施するものとする。

2. これに定められていないものは、監督職員と協議するものとする。

(2) 電子納品について

1. 本工事の提出書類について、可能な範囲で電子媒体（情報共有システム（ASP）・CD、DVD）による納品を行うものとする。
2. 電子納品の対象となる成果品の種類や提出方法の詳細については、受注者と監督員が別途協議して決定するものとする。
3. 電子納品により省資源・省スペース化や業務時間削減を目的としていることから、発注者・受注者両者の負担とならない範囲で実施することとする。
4. 工事の電子納品に係る費用については、共通仮設費率に含まれるものとし、別途計上しない。

(3) 農地法許可手続

資材置き場、現場事務所、残土捨場等に農地を使用する場合は、農地法の許可を得ること。

(4) 道路工事に係る地区への周知

施工時期が決まり次第、監督員へ報告のこと。工事周知文は、月1回の市広報誌回覧時に合わせて回覧する。なお、これによらない場合は、請負者にて地区住民へ周知を行うこと。

(5) 工期について

本工事の工期は、入札日の平日3日後から令和9年3月12日（金）まで（約4か月半）とする。

令和 8 年度
経年管更新事業
配水管布設替（馬場字川原田地区）工事

水 路 横 断 工
仕 様 書

南相馬市建設部水道課

I. 一般事項

1. 適用範囲

この仕様書は、南相馬市建設水道課（以下「発注者」という。）が発注する「令和8年度経年管更新事業配水管布設替（馬場字川原田地区）工事」のうち、水路横断工に適用し、この仕様書に定めのない事項は図面に記載した特記事項及び、以下の仕様書・基準等を適用する。

- ① 土木工事共通仕様書（福島県）
- ② 水道工事標準仕様書【土木工事偏】（日本水道協会）
- ③ 水道施設設計指針（日本水道協会）
- ④ 水管橋設計基準（日本水道鋼管協会）
- ⑤ 道路橋示方書（日本道路協会）

2. 法令等の遵守

工事の施工にあたり、受注者は、建設業法、道路交通法、労働基準法、労働安全衛生法、職業安定法、労働者災害補償保険法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、建設工事公衆災害防止対策要綱等の関係法令及び工事の施工に関する発注者の条例、規則等を遵守する。

3. 疑義の解釈

仕様書及び設計図書に疑義を生じた場合、発注者と受注者は協議のうえ解決するものとする。仕様書及び設計図書以外の細部については、監督職員の指示による。また、仕様書及び設計図書に明示されていない軽微なもので、工事の施工上、当然必要な事項は、受注者の責任と負担において行う。

4. 関係書類の提出

- (1) 受注者は、指定の日までに発注者の定める書類を提出しなければならない。
また、提出した書類に変更を生じたときは、速やかに変更届を提出する。
- (2) 工事完成図書は、工期内において速やかに提出する。

5. 施工計画書の提出

- (1) 受注者は、工事着手前に発注者の定める事項を記載した施工計画書を提出しなければならない。ただし、簡易な工事においては監督職員の承諾を得て記載内容の一部を省略することができる。
- (2) 施工計画書の内容に変更が生じた場合は、変更部分に着手する前に、該当事項について変更計画書を提出する。

6. 委任又は下請負

- (1) 受注者は、工事の全部又は大部分を第三者に委任し、又は請負わせてはならない。
- (2) 受注者は、工事の一部を第三者に委任し、又は請負わせようとするときは、下請計画報告書を提出しなければならない。また、その結果については、速やかに下請結果報告書を発注者に提出する。

7. 現場代理人等

- (1) 受注者は、現場代理人、主任技術者及び専門技術者を定め、現場代理人等指定通知書を発注者に通知しなければならない。
また、これらの者を変更したときも、同様とする。なお、現場代理人、主任技術者及び専門技術者は、これを兼ねることができる。
- (2) 現場代理人は、工事現場に常駐し、工事に関する一切の事項を処理するとともに、監督職員の指示に従い、工事の円滑、迅速な進行を図る。
- (3) 現場代理人は、工事の従事者を十分に監督し、工事現場内の風紀を取締り、火災、盗難の予防、衛生等に配慮するとともに、関係者に迷惑をかけないように指導する。

8. 諸手続

受注者は、工事に必要な諸手続を迅速、確実に行い、その経過については、速やかに監督職員に報告すること。

9. 費用の負担

材料及び工事の検査並びに工事施工に伴う測量、調査、試験、試掘及び諸手続に必要な費用は受注者の負担とする。

10. 契約の変更等

工事内容、工期又は請負金額等について変更の必要があるとき、速やかに発注者と受注者は協議する。

11. 賠償の義務

- (1) 受注者は、工事のため発注者又は第三者に損害を与えたときは、賠償の責を負うものとする。ただし、天災、その他不可抗力によると考えられる場合は、建設工事請負契約約款により協議する。
- (2) 受注者が使用する工事従事者の行為又はこれに対する第三者からの求償については、発注者は一切その責を負わない。
- (3) 前2項の処理は、原則として受注者が行う。

12. 目的物の引渡し、所有権の移転及び部分使用

- (1) 発注者は、工事完成検査によって工事の完成を確認した後、受注者が工事目的物引渡書により工事目的物の引渡しを申し出たとき、直ちに当該工事目的物の引渡しを受ける。
- (2) 引渡しによりその所有権は発注者に帰属するものとし、工事目的物が受注者の所有に属するときは、工事目的物全部の引渡しが完了するまで、責任を持って管理保管する。
- (3) 発注者は、工事の一部が完成した場合に、その部分の検査をして合格と認めたときは、その合格部分の全部又は一部を、受注者の同意を得て使用することができる。
ただし、使用部分の維持管理は発注者が行う。

1 3. 保証期間

受注者は、工事の目的物に瑕疵があるときは、引渡しの日から2年間その瑕疵を補修し、又はその瑕疵によって生じた滅失、若しくは毀損に対し、損害を補償しなければならない。ただし、その瑕疵が受注者の故意、又は重大な過失により生じた場合は、引渡しの日より10年間その責を負う。

1 4. 事故防止

- (1) 受注者は、工事施工中に交通の妨害となる行為など公衆に迷惑を及ぼす行為のないよう、関係官公署の指示事項を遵守し、事故防止のため十分な措置を講じなければならない。
- (2) 受注者は、工事現場の所要箇所には、専任の保安責任者、地下埋設物保安責任者を常駐させ、保安点検に努め、必要に応じて監督職員に報告し、その指示を受ける。
- (3) 受注者は、工事施工中、地上、地下の既設工作物に支障をきたさないよう保護工を施し、既設工作物に損傷を及ぼし、又は便宜上取り外した場合等は、受注者の負担において、指定の期限内に完全に復旧するものとする。
- (4) 受注者は、他工事と同時施工を行う場合、工事現場内に各受注者合同による、安全についての打合せの場を設けなければならない。

1 5. 事故報告

受注者は、工事施工中、事故が発生したときは、所要の措置を講じるとともに、事故発生の原因、経過及び事故による被害の内容等について、直ちに監督職員に報告するとともに、事故報告書を提出する。

1 6. 工事標識等

受注者は、工事現場には、見やすい場所であつ交通安全上支障とならない場所に、工事標示板、その他所定の標識を設置しなければならない。

1 7. 土地使用の承認

受注者は、現場事務所、材料置場、機械置場等のために、公有地、私有地を使用する場合は、その承認を受けなければならない。また、それに要する費用は、受注者の負担とする。

Ⅱ. 材 料

1. すべての使用材料は発注者の承認を得ること。また、使用材料はできる限り、日本水道協会規格（JWWA）、日本工業規格（JIS）とする。
2. 受注者は、使用材料を使用する前にその品質、製造年、寸法、数量等又は見本品について監督職員の確認を受けるものとし、不合格品は、直ちに現場より搬出しなければならない。なお、材料確認をしたものであっても、使用時において損傷、変質したものがあつたときは、新品と取り替え、又は補修し、再度監督職員の確認を受ける。

3. 水管橋に伴う材料の工場製作品は以下に準ずる。

3－1. 製作工場における一般事項

- (1) 日本水道協会検査工場とする。

3－2. 構造・管径

- (1) 両端固定型パイプビーム式水管橋
- (2) 水管橋橋長：11.28m（支間長 13.68m）
- (3) 管径：通水管 150A・外装管 250A

3－3. 主要使用材料

(1) 鋼材

①通水管

配管用ステンレス鋼鋼管 SUS304TP Sch20s JIS G 3468

②外装管

一般構造用炭素鋼鋼管 STK400 JIS G 3444

(2) 溶加材及び溶接棒

ステンレス鋼被覆アーク溶接棒 JIS Z 3221

溶接用ステンレス鋼溶加棒及びソリッドワイヤ JIS Z 3321

ステンレス鋼アーク溶接フラックス入りワイヤ及び溶加棒 JIS Z 3323

軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 JIS Z 3211

軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用ティグ溶接溶加棒及びソリッドワイヤ
JIS Z 3316

3－4. 製作及び品質形状

(1) 溶接

溶接工は、JIS Z 3801、JIS Z 3821 に定められた有資格者とする。

(2) 溶接作業

①水道管(本管)

溶接は初層～2 層部はティグ溶接、積層部はティグ溶接または被覆アーク溶接によって行い、初層はフラックス入り溶加棒を使用する。

溶接部は十分に乾燥させ、有害なものは、ステンレスワイヤブラシその他で完全に除去、清掃してから溶接を行う。

溶接部での収縮応力や溶接歪を少なくする為、溶接熱が均等になるよう、溶接順序に留意する。

(3) 仮組立

WSP027「水管橋工場製作仮組立および現場架設基準」に準ずる。

(4) 据付

工事に要する一切の機材は請負者の負担で準備を行い、工事完了後は速やかに撤去する。

また、機材の搬出入等により既設道路その他に損傷を与えた場合は、速やかに復旧し、一般交通に支障を与えてはならない。なお、必要に応じて交通誘導員を配置し、第三者及び一般交通の安全を確保しなければならない。

(5) 架設

請負者は、水管橋架設に際して次の規定によらなければならない。

①クレーン架設に必要な地耐力など安全性について検討する。

②架設クレーンの規格については、橋体ブロックの重量、現場のベント設置可能位置、架設順序などを考慮して決定する。

③部材の組立に当たっては、マークされた組立記号に従い正確に作業を行わなければならない。

3－5．塗装

(1) 塗装

塗装に従事する作業員は、塗装に対して十分な経験を有するものとする。

塗装作業：鋼橋塗装作業 2 級技能士以上の国家資格を有する作業員が行うものとする。

(2) 塗装区分

A 内面：無塗装

B 外面：露出防食

3－6．試験及び検査

(1) 材料試験

鋼材の化学分析試験及び機械試験等は、メーカーの試験結果による。

(2) 寸法、形状、外観検査

管 1 本毎に全数について行い、精度は WSP 027「水管橋工場仮組立及び現場架設基準」による。

(3) 仮組立検査

仮組立精度は、WSP 027 により行う。

(4) 溶接部の検査

通水管の突合せ溶接箇所はX線試験を行う。

(5) 塗装検査

外面検査：塗装面にムラ、タレ、著しいデコボコ、有害なクラック等の欠陥の有無について目視検査を行う。

検査結果：検査の結果、不合格の箇所は欠陥部を除去して再度外面を仕上げ、再試験を行う。

(6) 単位部材の精度

単位部材の精度は、次に示すものを標準とする。

板厚及び外径	JIS 規格による
主部材長	$\pm 10\text{mm}$
角度	$\pm 2^\circ$

全長及び支間長	$+ (10+L/2) \text{ mm}$ $- 5\text{mm}$ L = 支間長(m)
製作キャンバー	$20 \leq L$: $+0 \sim 15\text{mm}$ L = 支間長(m)

(7) X線試験

① X線試験は JIS Z 3106「ステンレス鋼溶接継手の放射線透過試験方法」により行う。

② 撮影箇所は、通水管の突き合わせ溶接部の全箇所について行い、1 リングにつき 1 枚とする。

③ 撮影されたフィルムの判定は、JIS Z 3106 の傷の像の分類 3 類以上を合格とする。

④ 試験の結果、不合格の箇所は欠陥部を除去して再溶接を行い、再試験をする。

Ⅲ. 施 工

1. 河川等関連工事と整合を図るとともに、施工者間で十分な協議を行い、施工区分、工程調整、安全に施工できる方法等の検討を行こと。
2. 管布設にあたっては、あらかじめ設計図又は施工標準図に基づき、平面位置、土被り、構造物等を正確に把握しておく。また、施工順序、施工方法、使用機器等について、

監督職員と十分打合せを行った後、工事に着手する。また、施工にあたっては、「水道工事標準仕様書（日本水道協会）Ⅲ管布設工事編」に準じる。

3. 水管橋の架設は、トラッククレーン及び人力による架設であるが、作業に際しては道路管理者、その他関係官公署等の指摘事項を厳守し、また手続き等に要する場合には請負者の負担において延滞なく行うものとする。また、現場諸検査に関しては、工場検査に準じ、検査終了後、速やかに「寸法検査成績書」、「X線試験成績書」を提出する。

見積単価一覧

	コード	名称	規格	見積単価	単位
1	F4001	K形離脱防止特殊押輪	φ 75 離脱防止 (3DkN以上)	¥ 16,930	個
2	F4002	K形離脱防止特殊押輪	φ 150 離脱防止 (3DkN以上)	¥ 29,290	個
3	F4003	識別マーカー	青色	¥ 2,100	個
4	F4004	両挿しメタルシート仕切弁	φ 75	¥ 148,000	基
5	F4005	CVメカニカルベンド	φ 75×45°	¥ 25,540	個
6	F5001	不断水割T字管K形受口付	DCIP用 φ 150×φ 150 材料費	¥ 391,910	基
7	F5002	K形管帽	φ 150	¥ 56,160	個
8	F6001	両B曲管	150A×1000L×90° ×600L	¥ 325,700	本
9	F6002	両B保温付曲管 (取出7.5kGF付)	150A×250φ×80A×600L×90° ×2890L×1890L1×240H	¥ 1,125,700	本
10	F6003	両B保温付曲管	150A×250φ×3500L	¥ 663,200	本
11	F6004	両B保温付曲管	150A×250φ×2890L×90° ×600L	¥ 867,400	本
12	F6005	現場溶接部二つ割カバー	150A×250φ用	¥ 40,400	組
13	F6006	不凍急排空気弁 (SUS304)	φ 25	¥ 185,000	基
14	F6007	歩行防止柵 (SS400+S-1塗装)		¥ 133,900	組
15	F6008	伸縮可撓管 (B×S、K形)	φ 150 (h=200)※タイロッド付 EBT-UZSSK	¥ 1,180,000	組
16	F6009	ジョイントコート (材料)	150A用	¥ 6,000	枚
17	F7001	荷卸工		¥ 42,400	式
18	F7002	組立工 (地組工)		¥ 303,300	式
19	F7003	架設工	25 t ラフタークレーン使用	¥ 355,400	式
20	F7004	現場溶接工 (外装管溶接箇所)	150A×250φ用	¥ 124,000	箇所
21	F7005	現場塗装工	S-1塗装	¥ 120,000	箇所
22	F7006	歩行防止柵設置工	150A×250φ用	¥ 12,500	箇所
23	F7007	伸縮可撓管設置工	φ 150	¥ 14,000	箇所
24	F7008	ジョイントコート工	150A用	¥ 8,100	箇所
25	F7009	X線検査工		¥ 199,700	日
26	TZ7112	管明示テープ (エコポリ製・印刷表示付)	W50mm×t0.15mm 粘着	¥ 181	m
27	TZ8011	ポリエチレンスリーブ	φ 75 × 5.0m	¥ 580	m
28	TZ8014	ポリエチレンスリーブ	φ 150 × 6.0m	¥ 790	m
29	TZ8052	粘着テープ	t = 0.4mm W = 50mm	¥ 122	m
30	TZ8252	エンジンカッター損料		¥ 913	日